

## 第6期 横浜市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定について

### 1 計画の策定

高齢者に関する各種事業及び介護保険制度の円滑な実施に関する総合的な計画（法定計画）である「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」は、3年ごとに見直し策定しています。

今回、24年度～26年度の現行計画を見直し、26年度末までに第6期計画を策定します。

#### (1) 計画期間

平成27～29年度の3か年計画です。この計画に基づき、3か年の第1号被保険者（65歳以上高齢者）の介護保険料の水準を決定します。

（参考） 第5期（24～26年度）保険料基準月額 5,000円  
第4期（21～23年度）保険料基準月額 4,500円

H24 2012年	H25 2013年	H26 2014年	H27 2015年	H28 2016年	H29 2017年	H30 2018年	H31 2019年	H32 2020年	H33 2021年	H34 2022年	H35 2023年	H36 2024年	H37 2025年	H38 2026年
現行計画 第5期計画			第6期計画			第7期計画			第8期計画			第9期計画		
<p>第5期計画の、「29年の高齢者介護の姿」を見据えた目標から、 第6期計画では、さらに先の「2025年の高齢者介護の姿」を見据えた目標を設定</p>														

#### (2) 策定の手法

策定にあたっては、実態調査で把握された現状、現行計画の振り返りを基に進めるほか、介護保険法改正など国の動きを注視しながら進めます。

また、当事者や専門的な見地から幅広い視点での協議を行うため、「介護保険運営協議会」での協議・検討及び現行計画の実施状況や主な課題、素案作成、区民説明会等について関係課長会議での検討を行います。

あわせて、パブリックコメントを実施し、広く市民意見の把握と反映に努めます。

#### (3) 計画策定スケジュール（予定）

平成26年4月～9月	第5期の振り返り、第6期計画の主な施策展開の方向性検討
9月	常任委員会（計画課題・骨子の説明）
10月～11月	計画素案作成、公表
11月～12月	素案による区民説明会の開催、パブリックコメント実施
平成27年1月～2月	計画最終案のとりまとめ、介護保険料の推計
3月	常任委員会（介護保険条例の改正）
	計画策定、介護保険料の改定（介護保険条例の改正）

\*スケジュールは国の動向等で変更になる場合があります。

## 2 第6期計画の方向性 ～よこはま地域包括ケア計画（仮称）～

第5期計画では「様々なサービスを切れ目なく利用できる街の実現～地域包括ケアシステムで みんな 安心～」を目指すべき将来の姿として、地域包括ケアシステム（※）の実現に取り組んでいます。「団塊の世代」が75歳以上となる2025年に向け、第6期の計画では「地域包括ケア計画」として、超高齢社会を見据えた地域づくり・まちづくりを本格的に進める必要があります。

したがって、2025年度の介護需要やそのために必要な保険料水準を推計し、それらを踏まえた中長期的視野に立ち、2025年までの段階的な充実の方針と第6期の位置づけを明らかにし、第6期の目指す目標と具体的な施策を計画に表します。

※ 地域包括ケアシステム：高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、その人の状態に応じて、医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスを切れ目なく提供する体制

### 記載事項（案）

#### 第1章 計画策定の趣旨

- ・計画の位置づけ、計画期間、計画への市民意見の反映

#### 第2章 横浜市の高齢者を取り巻く状況

- ・横浜市の高齢者の現状（実態調査、人口統計）、横浜市の介護保険の状況

#### 第3章 2025年の横浜市の高齢者像

- ・高齢者の増加（後期高齢者、認知症高齢者、要介護認定者）、定住意向、社会参加への意向

#### 第4章 計画の基本目標

- ・第5期計画の課題、第6期計画の基本目標

#### 第5章 地域包括ケアシステム構築のために

- ・高齢者を支える地域づくり、地域ケア会議、包括の強化、人材確保、サービスの質の向上

#### 第6章 地域包括ケアシステムを実現するための3つの方向性

- ・元気高齢者支援（生きがいづくり・介護予防等）、在宅支援（地域密着、医療と介護の連携、生活支援サービス等）、施設と住まいの充実（特養の整備、多様な住まいの支援等）

#### 第7章 2025年を見据えた介護サービス量等の見込み

- ・被保険者数等の見込み、介護保険給付の見込み、計画の進行管理、平成29年度の目標値

#### 第8章 資料

- ・区の高齢者施策、日常生活圏域、パブリックコメント、介護保険運営協議会、実態調査、用語集

## 《参考》介護保険制度の改正案の主な内容について（厚生労働省より）

### 1 地域包括ケアシステムの構築

高齢者が住み慣れた地域で生活を継続できるようにするため、介護、医療、生活支援、介護予防を充実。

- (1) 地域包括ケアシステムの構築に向けた地域支援事業の充実
- (2) 予防給付（訪問介護・通所介護）を市町村が取り組む地域支援事業に移行し、多様化
- (3) 特別養護老人ホームの新規入所者を、原則、要介護3以上に限定（既入所者は除く）

### 2 費用負担の公平化

低所得者の保険料軽減を拡充。また、保険料上昇をできる限り抑えるため、所得や資産のある人の利用者負担を見直す。

- (1) 低所得者の保険料の軽減割合を拡大
- (2) 一定以上の所得のある利用者の自己負担を引上げ
- (3) 低所得の施設利用者の食費・居住費を補填する「補足給付」の要件に資産などを追加

### 3 平成25年度 横浜市高齢者実態調査（報告）

#### (1) 目的

平成24年3月に策定した現行の「第5期横浜市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」（計画期間：平成24年度～平成26年度）の見直しにあたり、高齢者等の実態を踏まえ介護サービスの現状と需要を把握するとともに、第5期計画の進捗状況を踏まえ、本市における課題の整理を行い、今後目指すべきサービス基盤の方向性を検討する基礎資料を得るため、高齢者実態調査を実施しました。

#### (2) 調査期間

平成25年10月～平成25年12月

#### (3) 調査の種類及び対象者数

調査分類	対象者数	調査票分類	回収状況
市民向け調査	19,870人	1 高齢者一般調査(65歳以上) 2 一般調査(55歳以上64歳以下) 3 介護予防事業調査 4 介護保険在宅サービス利用者調査(要支援) 5 介護保険在宅サービス利用者調査(要介護) 6 介護保険サービス未利用者調査(要支援・要介護) 7 小規模多機能型居宅介護、複合型サービス利用者調査 8 定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所利用者調査 9 特別養護老人ホーム入所申込者調査	10,590人 (回収率) 53.3%
事業所向け調査	4,491か所	10 特別養護老人ホーム調査 11 介護老人保健施設調査 12 介護サービス事業所(居住系)調査 (特定施設、認知症グループホーム等) 13 介護サービス事業所調査 ※居住系サービス除く 14 居宅介護支援事業所調査	2,533か所 (回収率) 56.4%
従事者向け調査	5,988人	15 ケアマネジャー調査 16 訪問介護員(ヘルパー)調査 17 施設介護職員(ケアワーカー)調査 18 地域包括支援センター専門職調査	3,491人 (回収率) 58.3%

## 平成 25 年度横浜市高齢者実態調査結果の概要

### 1 高齢者のいる世帯の状況

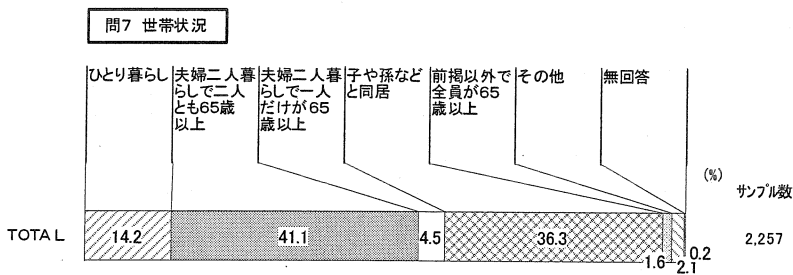
#### (1) 世帯構成

世帯構成をみると、いずれの対象者でも、前回（平成 22 年度調査）と今回とでは世帯構成の大きな変化はみられない。

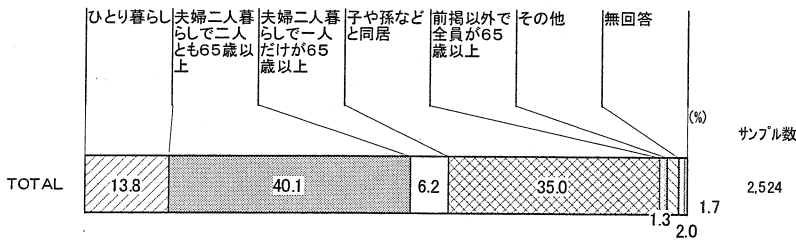
「ひとり暮らし」「夫婦二人暮らし（一人だけ 65 歳以上を含む）」の割合をみると、要支援が 71.0% と最も多く、次いで予防が 60.0%、高齢者一般が 59.8% となっている。

一方、要介護、特養申込者では、「子や孫など同居」の割合が、要介護 48.7%、特養申込者 43.0% となっている。

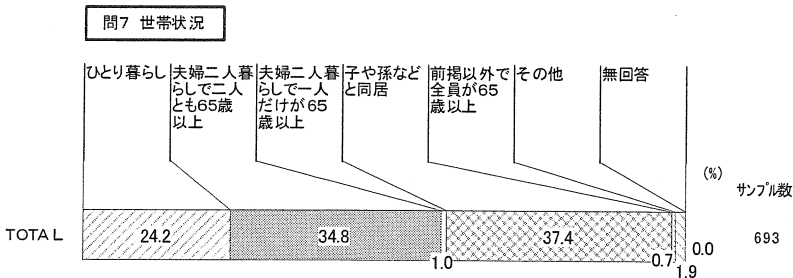
#### (高齢者一般)



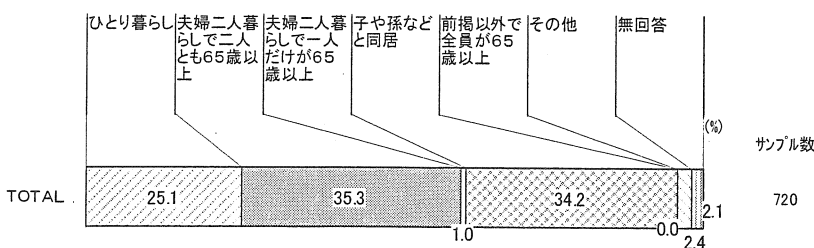
#### (高齢者一般：前回)



#### (予防)

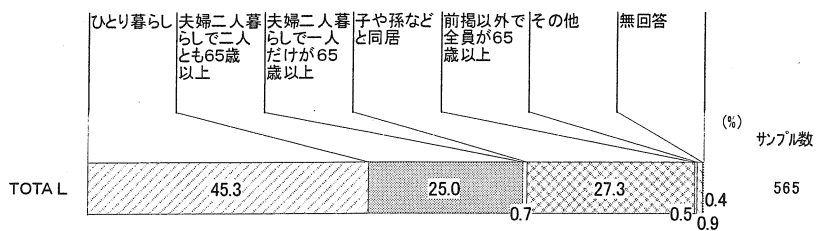


#### (予防：前回)

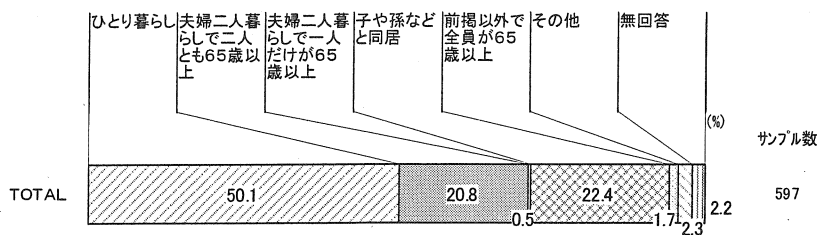


(要支援)

問7 世帯状況

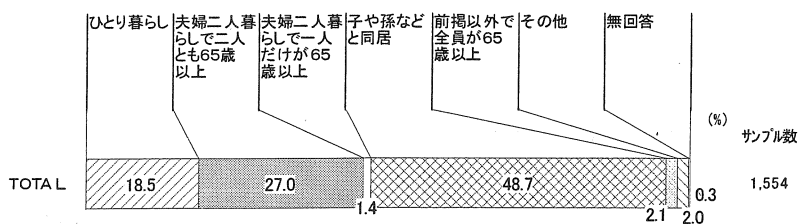


(要支援：前回)

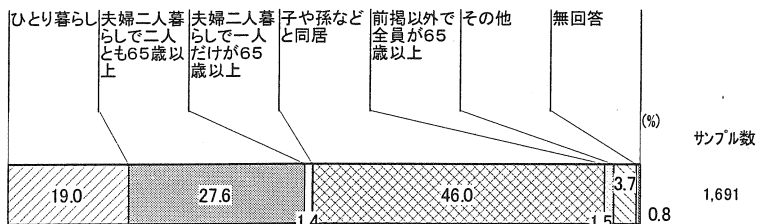


(要介護)

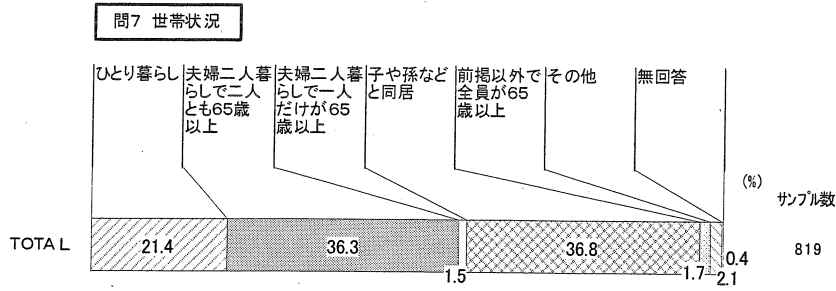
問7 世帯状況



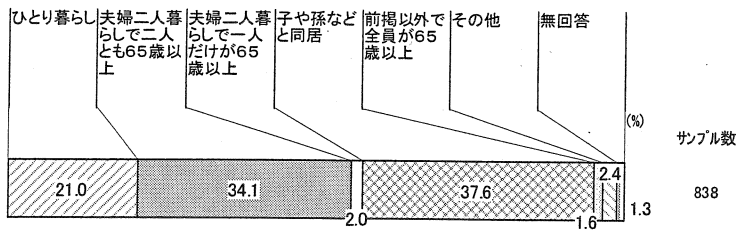
(要介護：前回)



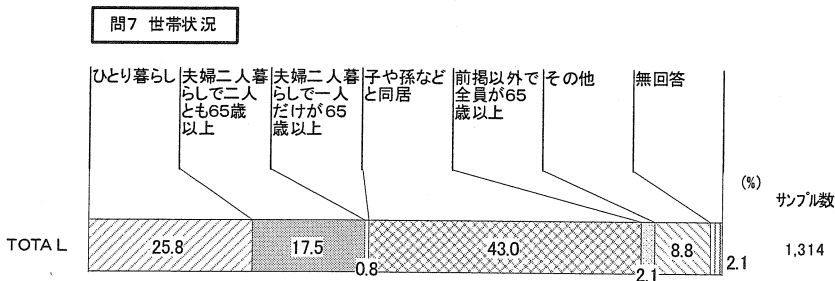
(未利用)



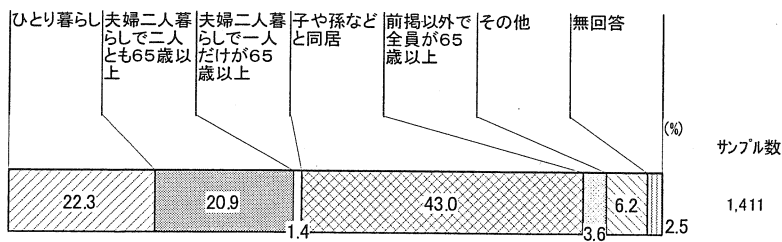
(未利用：前回)



(特養申込者)



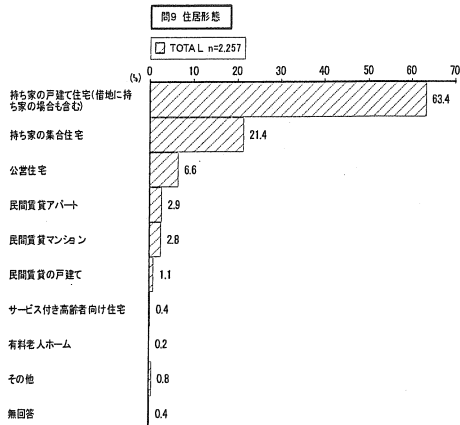
(特養申込者：前回)



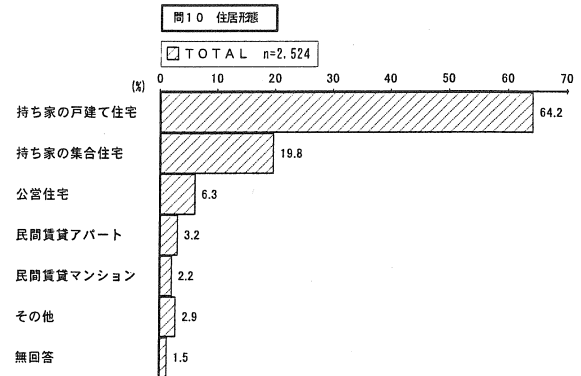
## (2) 住居形態

住居の形態をみると、いずれの対象者でも「持ち家の戸建て住宅（借地に持ち家の場合も含む）」の居住割合が最も多く、未利用が67.0%（前回65.0%）、要介護65.9%（前回63.2%）、高齢者一般が63.4%（前回64.2%）の順となっている。次いで「持ち家の集合住宅（分譲マンション等）」は予防が24.8%（前回15.3%）、高齢者一般で21.4%（前回19.8%）と2割を超えている。また、「公営住宅」の居住割合は要支援12.2%（前回9.5%）、予防10.8%（前回13.1%）と1割みられる。

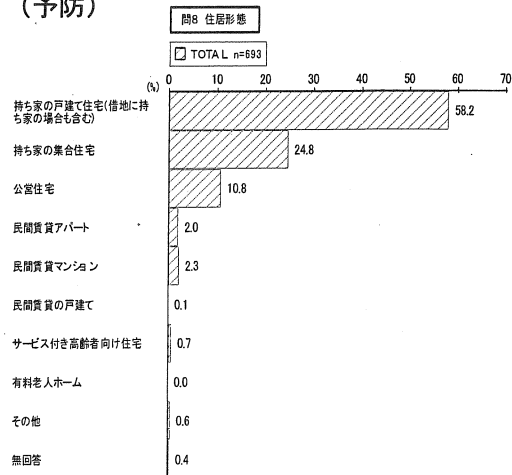
(高齢者一般)



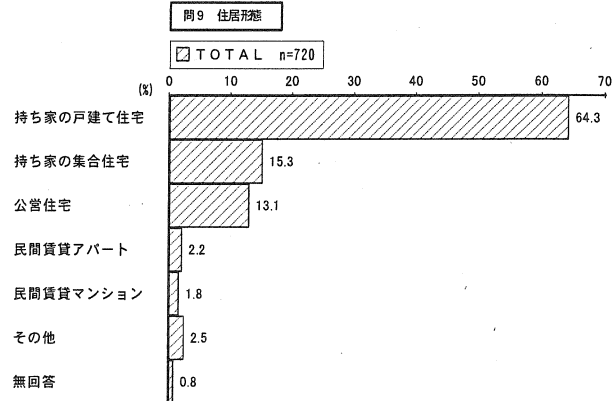
(高齢者一般：前回)



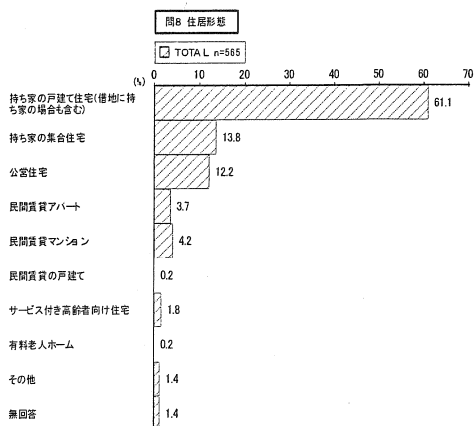
(予防)



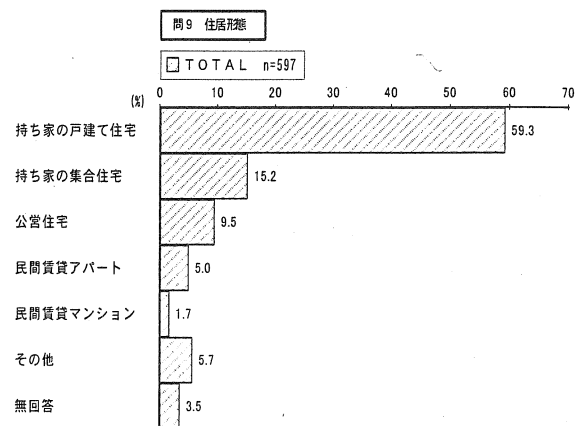
(予防：前回)



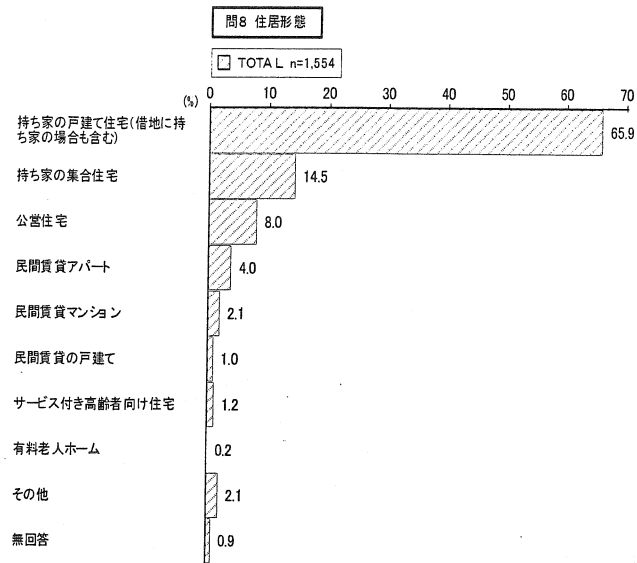
(要支援)



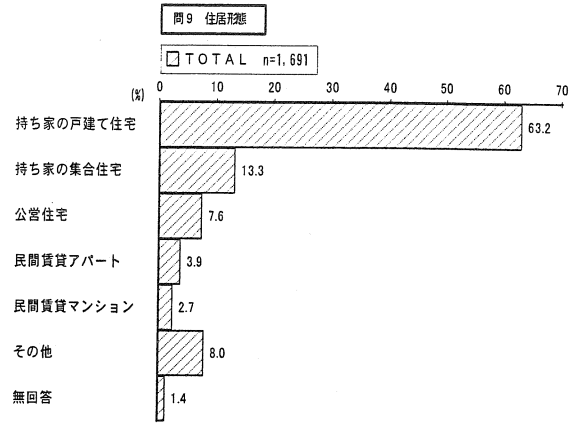
(要支援：前回)



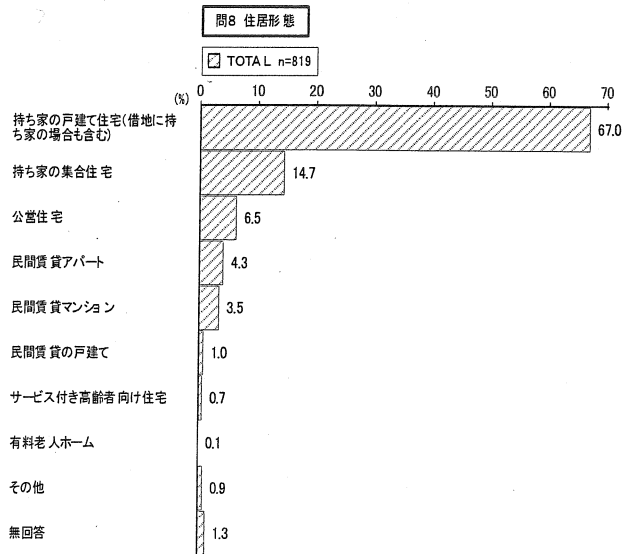
(要介護)



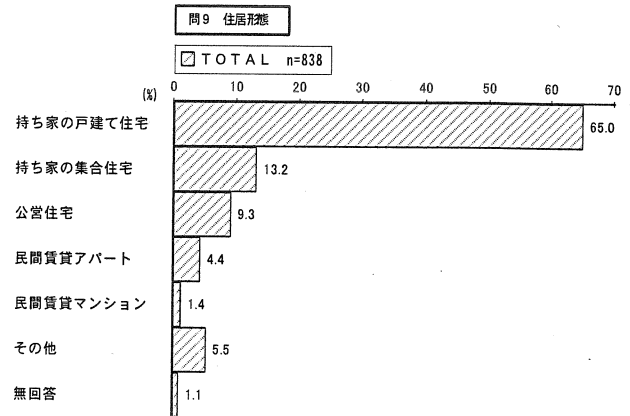
(要介護：前回)



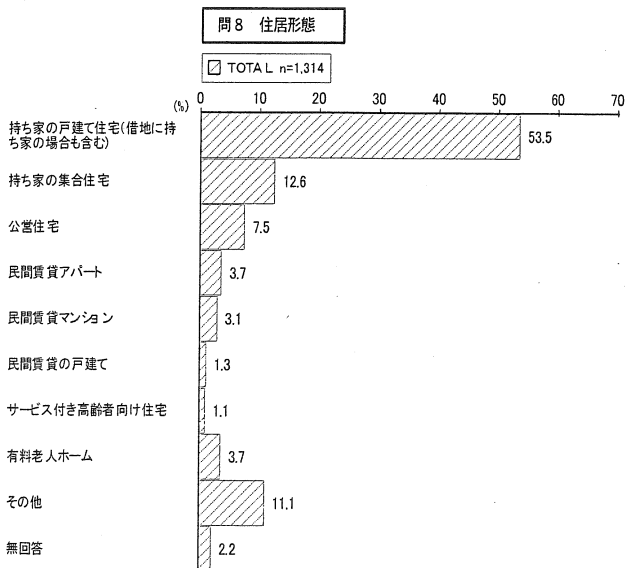
(未利用)



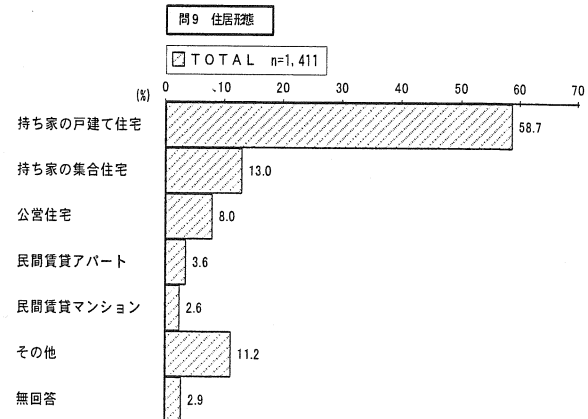
(未利用：前回)



(特養申込者)



(特養申込者：前回)

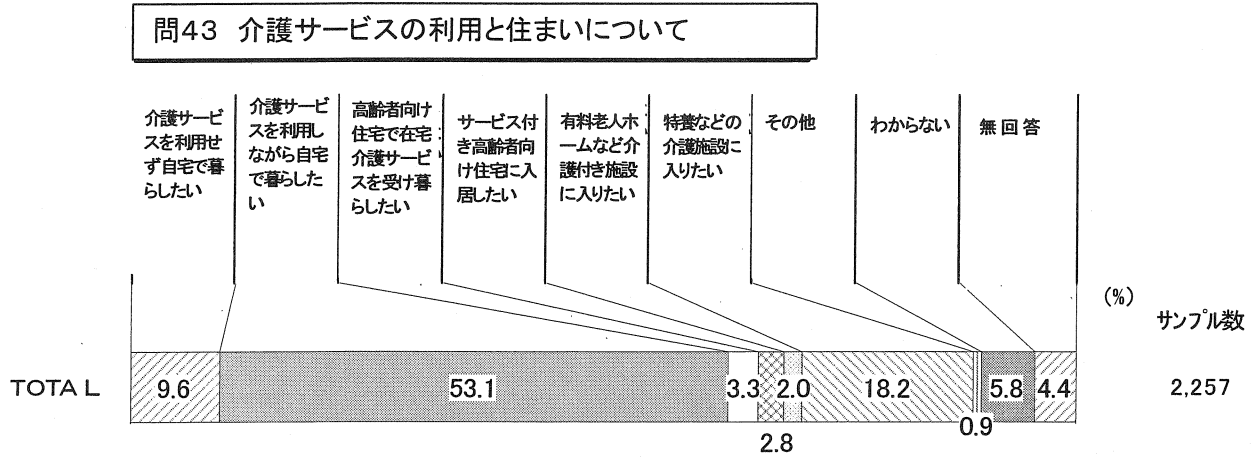




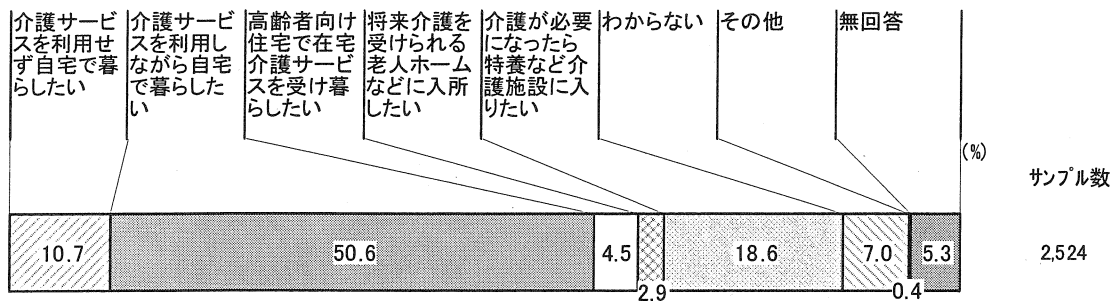
### (3) 介護サービスの利用と住まいについて

介護サービスの利用と住まいについての考え方をみると、「介護サービスを利用しながら、できるだけ自宅で暮らしたい」は、要介護で70.4%（前回72.3%）、高齢者一般で53.1%（前回50.6%）、予防で52.2%（前回51.8%）と半数を超えている。また、要支援では36.6%、未利用では44.3%となっている。（要支援、未利用では今回設問項目を変更）

(高齢者一般)

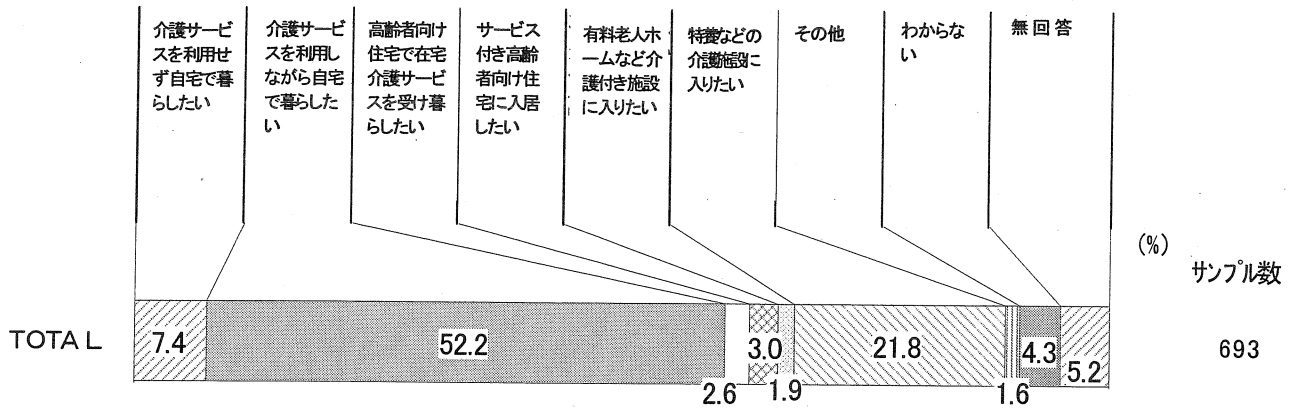


(高齢者一般: 前回)

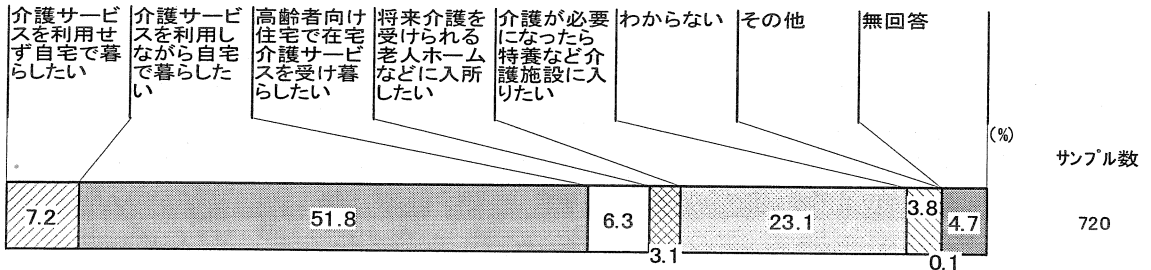


(予防)

問43 介護サービスの利用と住まいについて

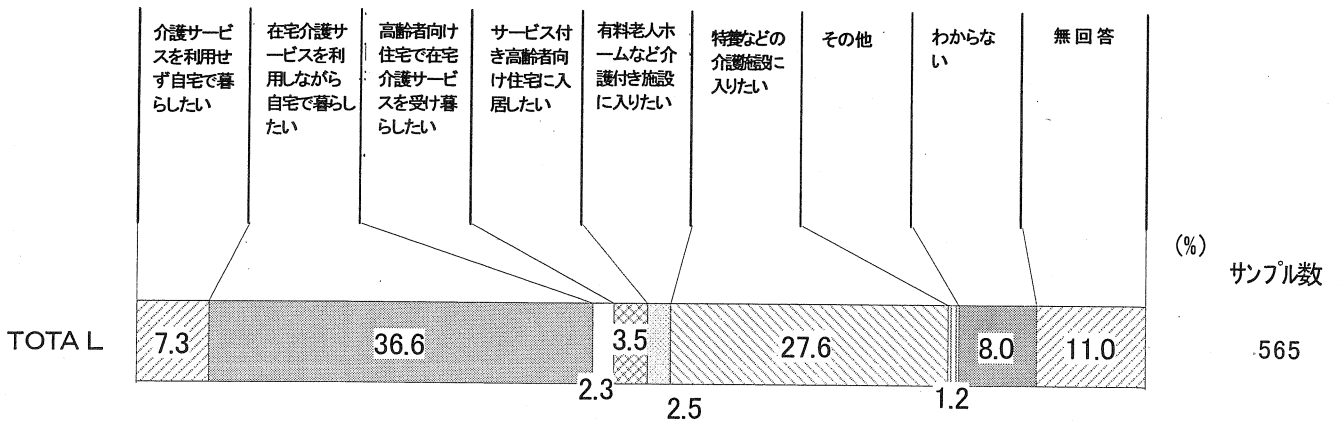


(予防:前回)

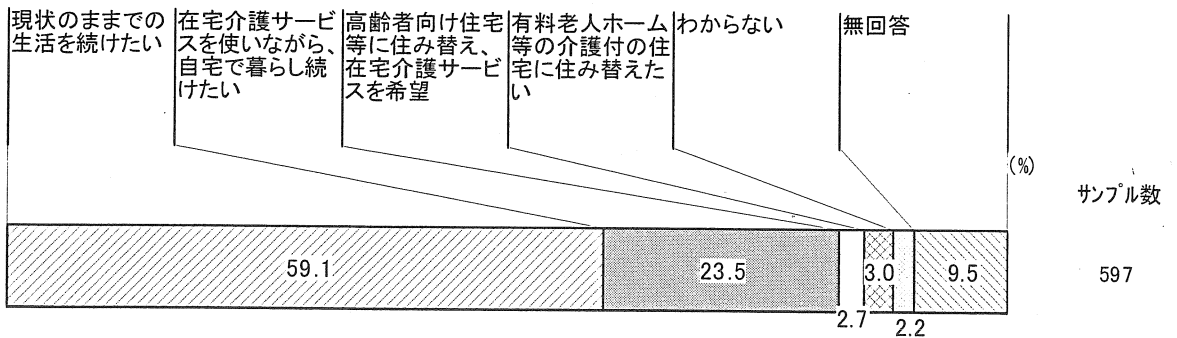


(要支援)

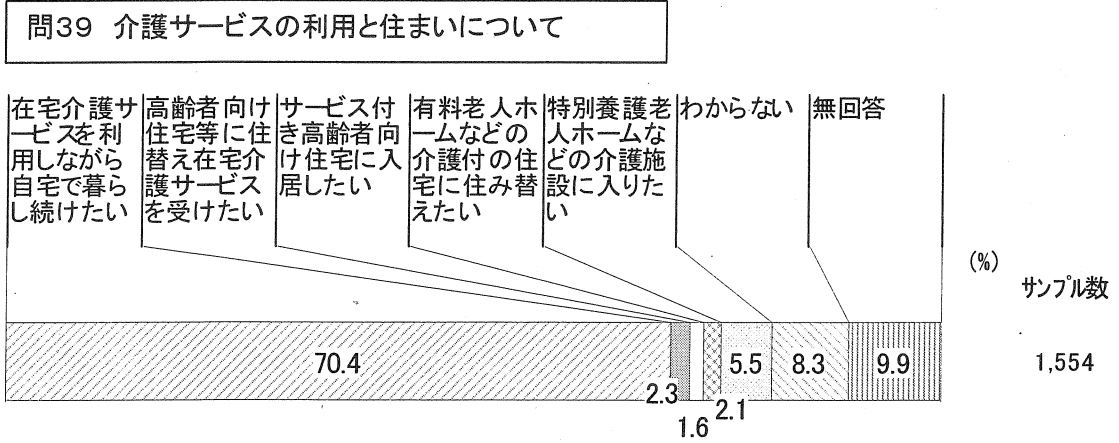
問44 介護サービスの利用と住まいについて



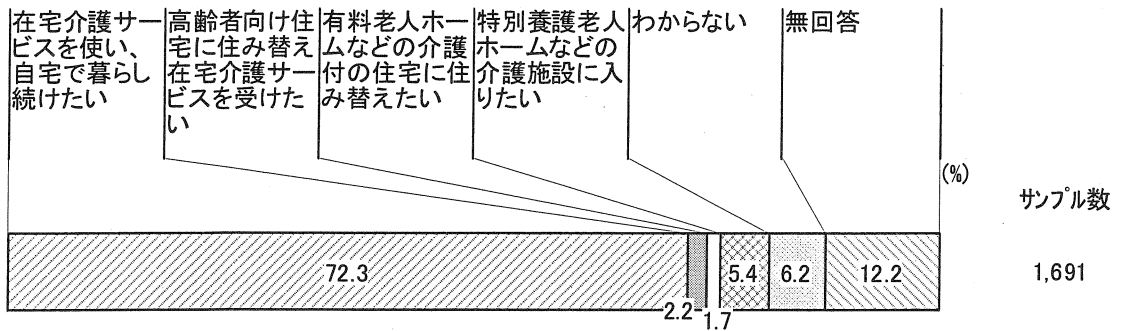
(要支援:前回)



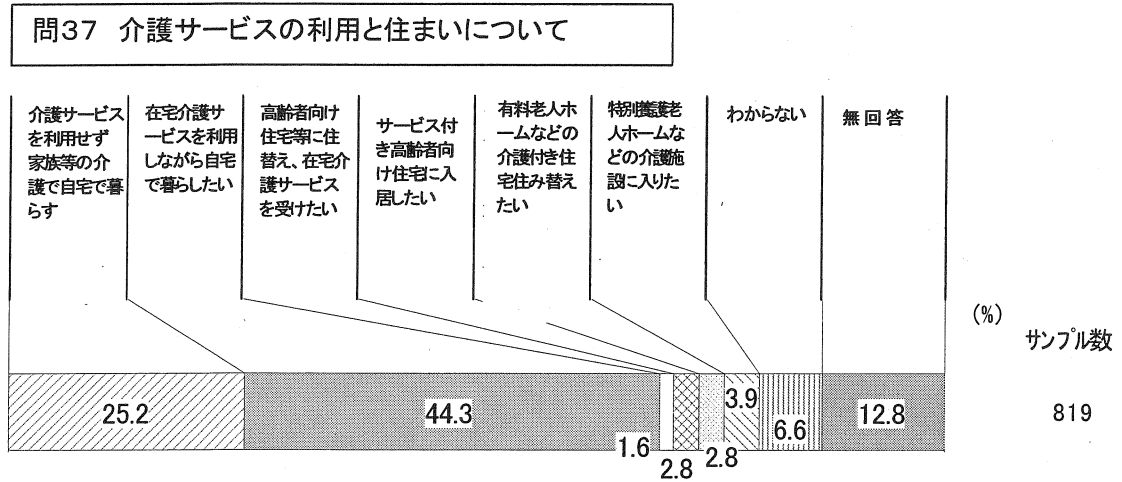
(要介護)



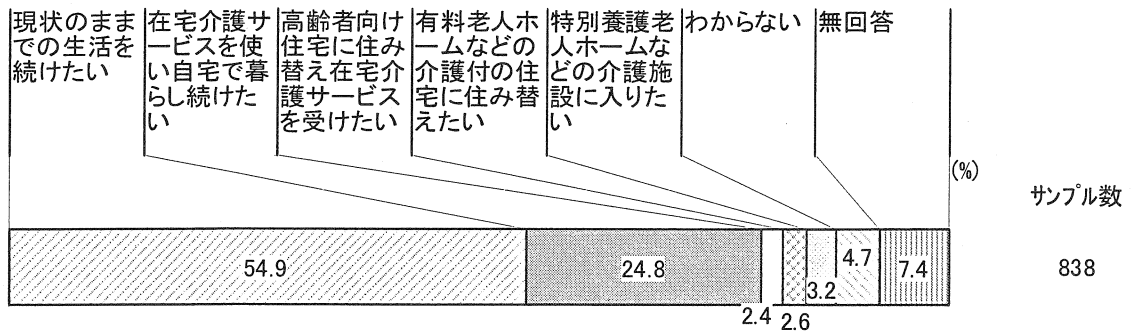
(要介護:前回)



(未利用)



(未利用:前回)



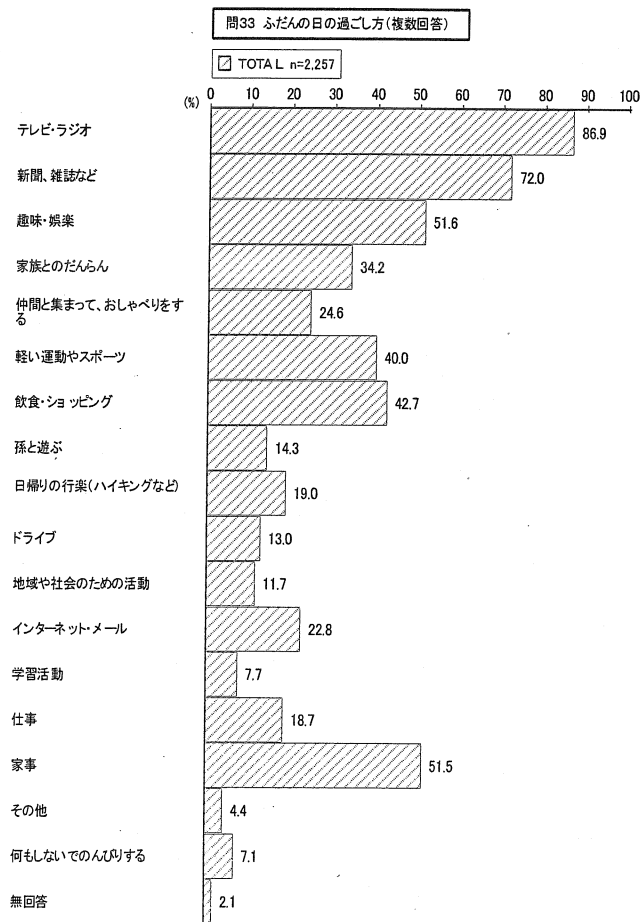
## 2 高齢者の活動状況

### (1) ふだんの過ごし方

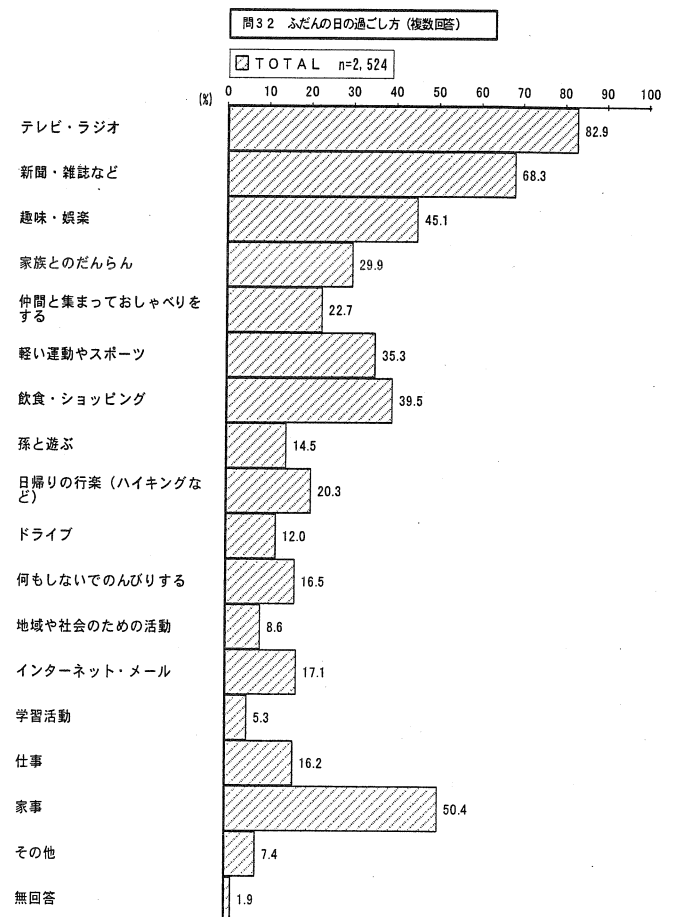
ふだんの過ごし方をみると、高齢者一般では「テレビ・ラジオ」が86.9%（前回82.9%）となっている。次いで「新聞・雑誌など」が72.0%（前回68.3%）、「趣味・娯楽」が51.6%（前回45.1%）となっている。

また、「インターネット・メール」は22.8%（前回17.1%）と2割を超えている。「何もしないでのんびりする」は7.1%と前回の16.5%から減少している。

(高齢者一般)



(高齢者一般：前回)

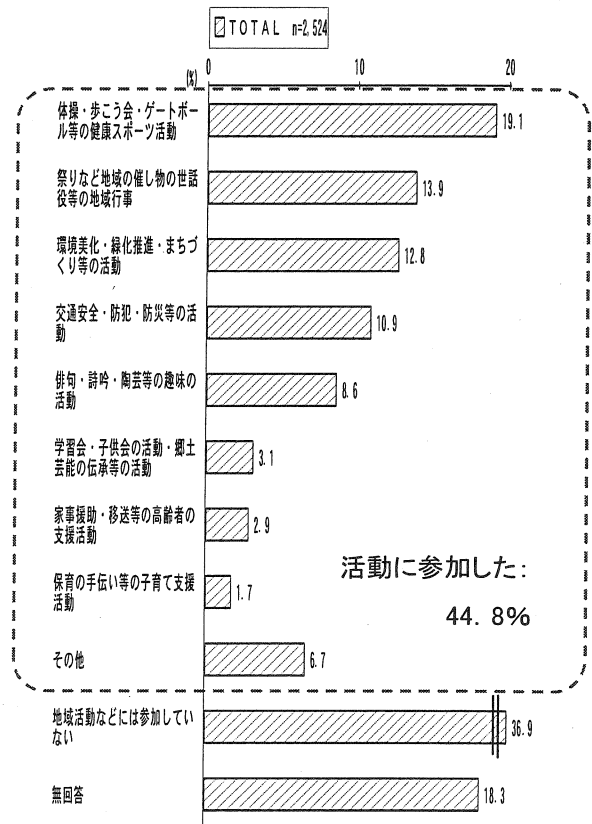
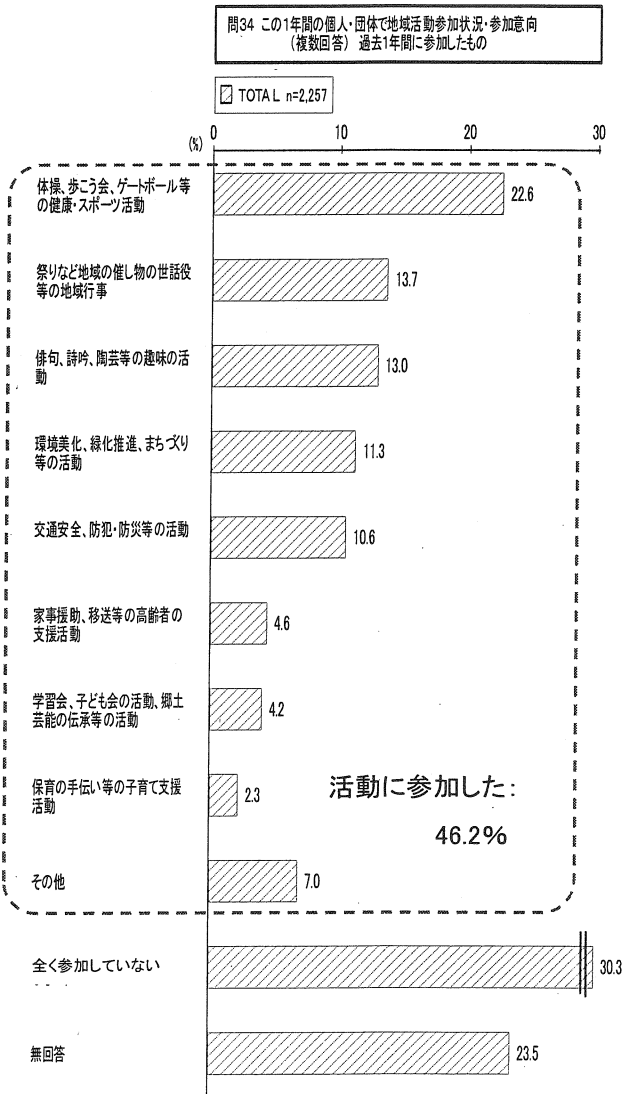


## (2) 地域活動への参加状況

過去1年間の地域活動への参加状況をみると、高齢者一般が46.2%、一般（55～64歳）35.0%となっている。高齢者一般の活動内容は、「体操、歩こう会、ゲートボール等の健康・スポーツ活動」が22.6%（前回19.1%）、「祭りなど地域の催し物の世話役等の地域行事」が13.7%（前回13.9%）、「俳句、詩吟、陶芸等の趣味の活動」が13.0%（前回8.6%）、「環境美化、緑化推進、まちづくり等の活動」が11.3%（前回12.8%）となっている。

(高齢者一般)

(高齢者一般：前回)

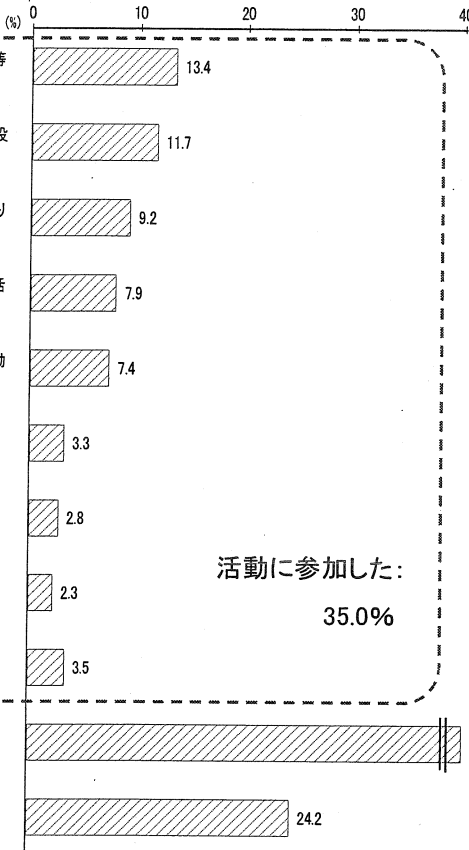


(一般 55 歳～64 歳)

(一般 55 歳～64 歳：前回)

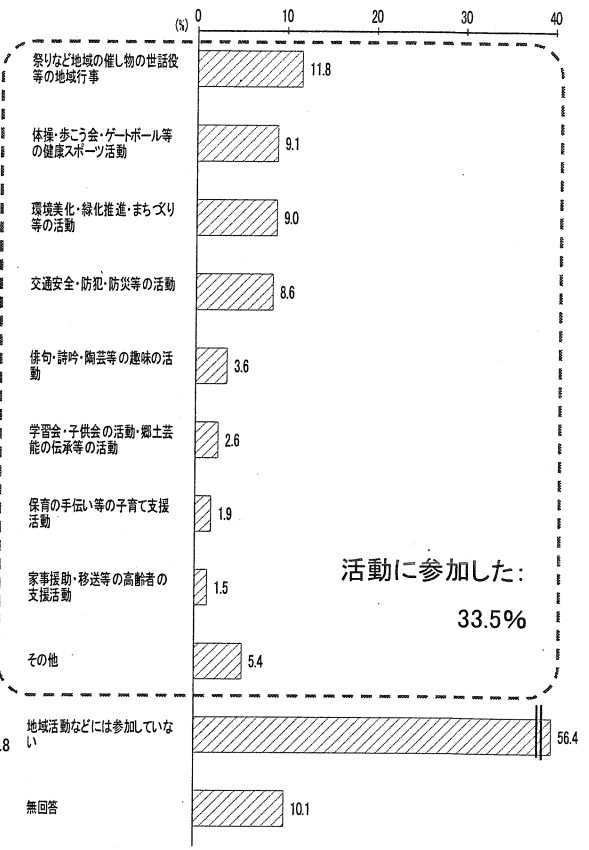
問29 この1年間の個人・団体で地域活動参加状況・参加意向  
(複数回答) 過去1年間に参加したもの

TOTAL n=1,296



問31 この1年間の個人・団体で地域活動参加状況(複数回答)

TOTAL n=1,025



(3) 就労状況

高齢者の就労状況をみると、「ほぼ毎日」から「(頻度は)決まっていない」までを合わせた、仕事をしている割合は23.6% (前回22.4%) である。

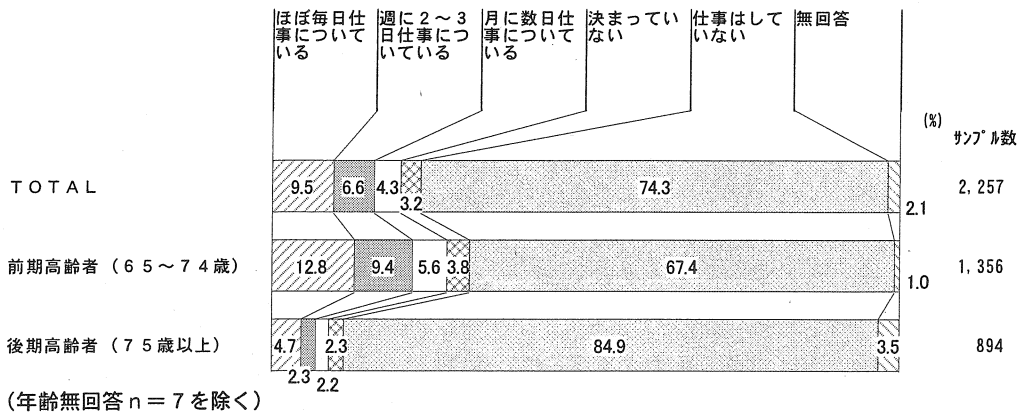
年齢(前期高齢者:65~74歳、後期高齢者:75歳以上)別にみると、前期高齢者では31.6% (前回29.6%) であるが、後期高齢者では11.5% (前回10.2%) となっている。

働くうえで重視している点を見ると、「体力的に無理なく続けられる仕事であること」が約6割(59.7%)で最も多く、以下、「自分のペースで進められる仕事であること」(40.7%)、「自分の能力を發揮できること」(40.3%)が4割台で続いている。

年齢(前期高齢者:65~74歳、後期高齢者:75歳以上)別にみると、「体力的に無理なく続けられる仕事であること」が前期高齢者では60.5%、後期高齢者では55.8%となっている。また「勤務日や勤務時間が選べること」では前期高齢者では22.9%、後期高齢者では10.6%となっている。

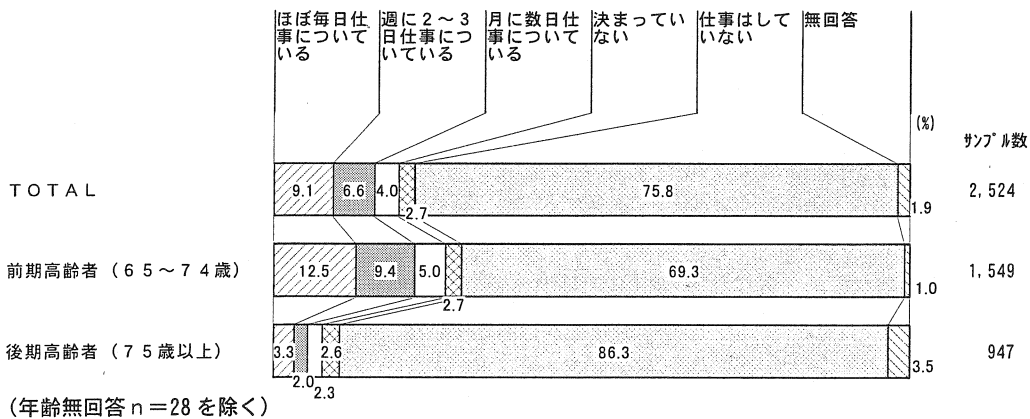
(高齢者一般)

問14 仕事の有無と頻度



(高齢者一般：前回)

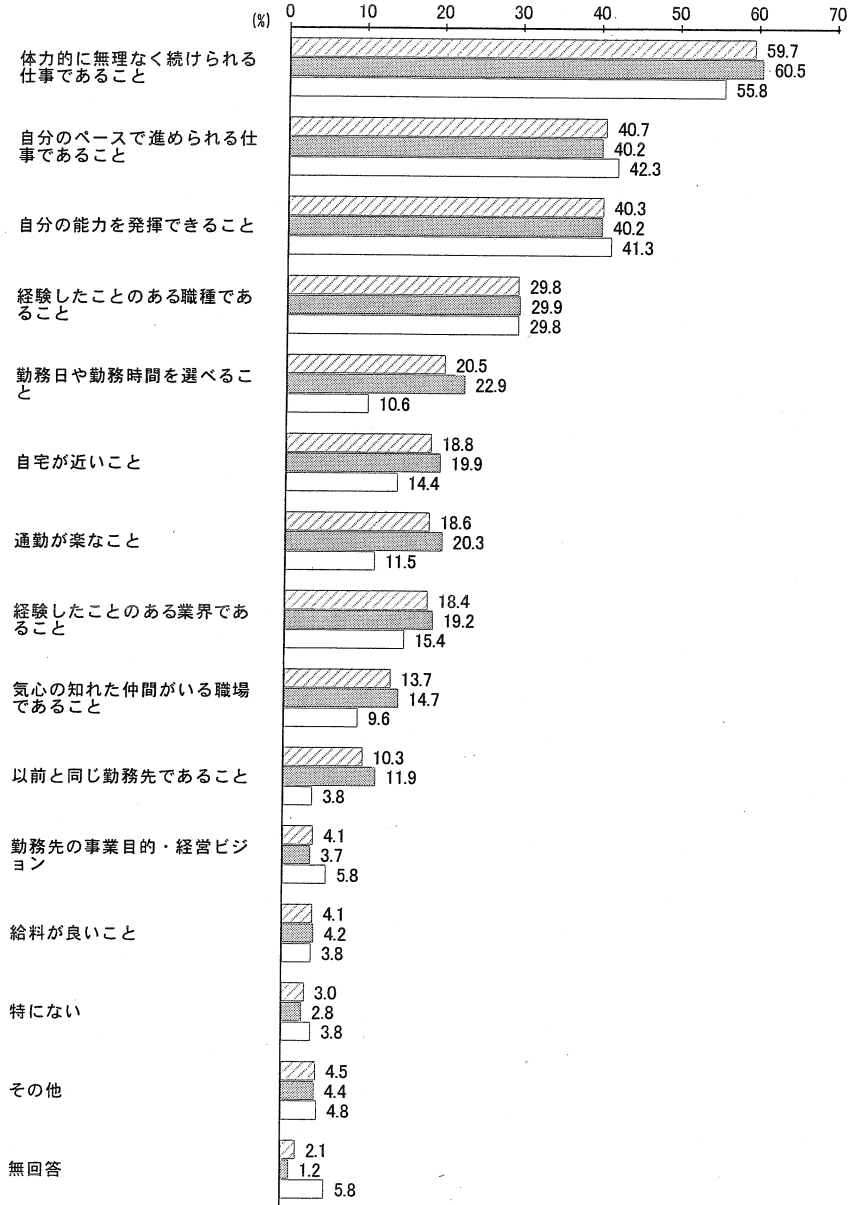
問15 仕事の有無と頻度



(高齢者一般)

問14-4 働くうえでの重視点 (複数回答)

TOTAL n=533  
 後期高齢者 (75歳以上) n=104  
 前期高齢者 (65~74歳) n=428





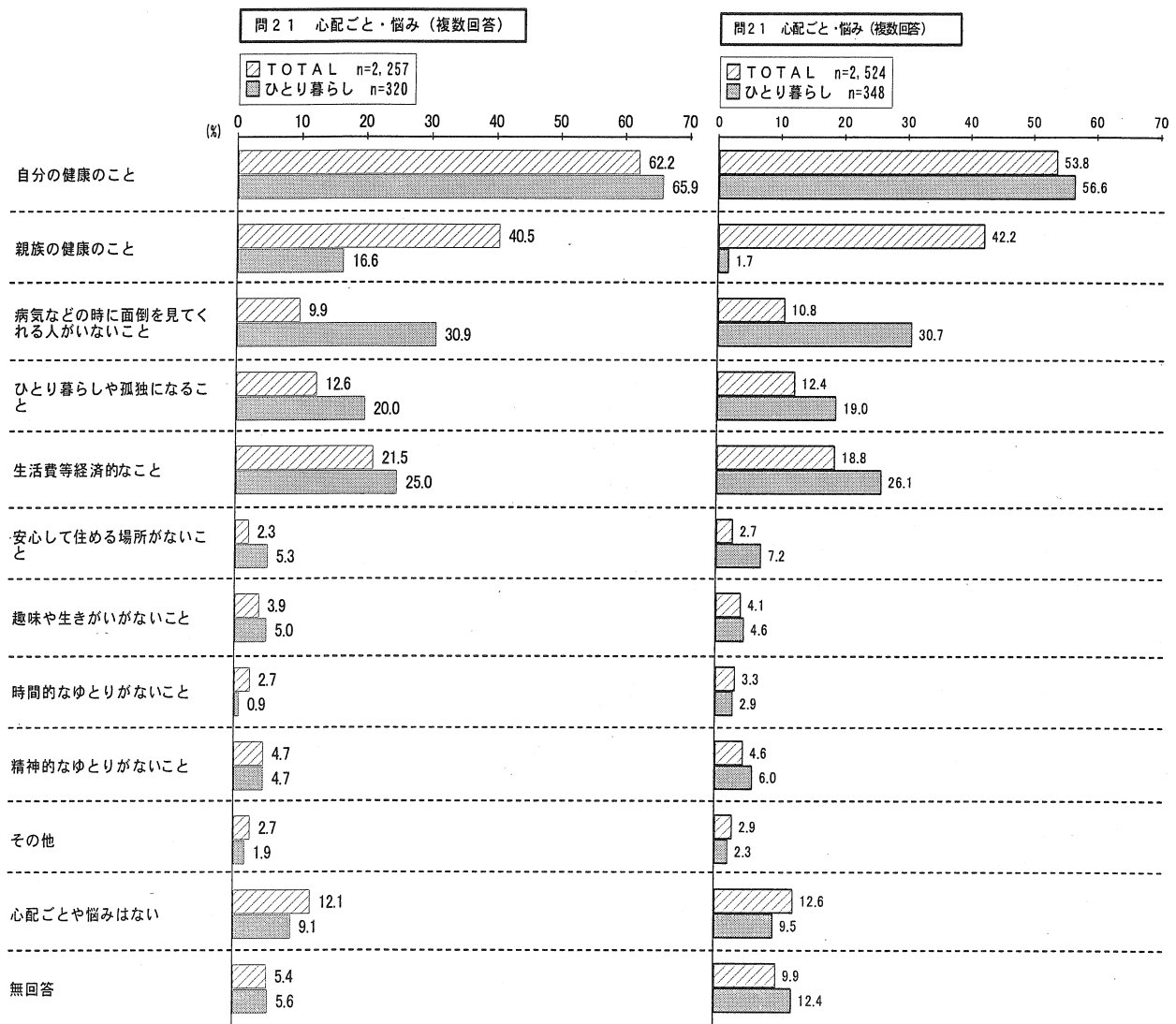
#### (4) 心配ごと・悩み

高齢者の心配ごと・悩みについては、「自分の健康のこと」が62.2%（前回53.8%）で最も多く、次いで「親族の健康のこと」が40.5%（前回42.2%）、「生活費などの経済的なこと」が21.5%（前回18.8%）の順となっている。

ひとり暮らし高齢者の場合、「病気などの時に面倒を見てくれる人がいないこと」が30.9%（前回30.7%）、「生活費等経済的なこと」が25.0%（前回26.1%）となっている。

(高齢者一般)

(高齢者一般：前回)

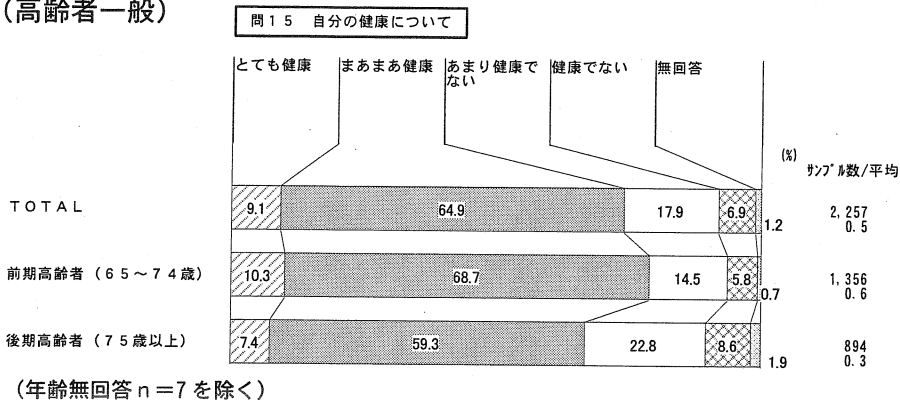


### 3 健康づくり・介護予防

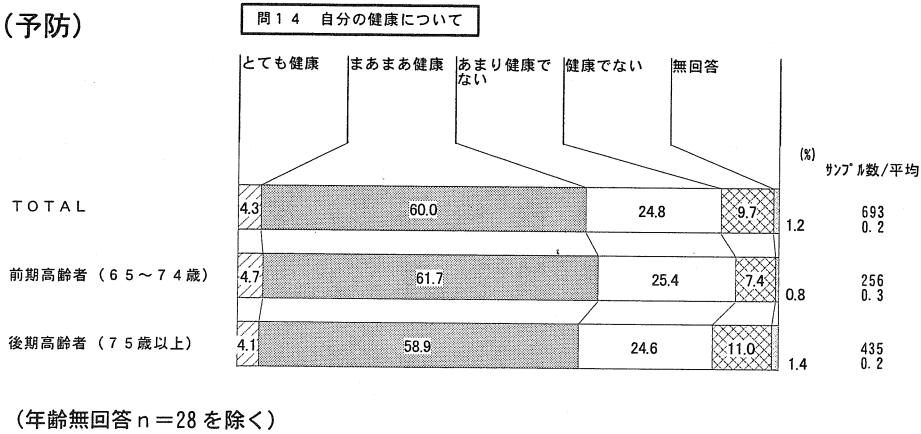
#### (1) 主観的健康観

主観的な健康観をみると、「とても健康」「まあまあ健康」を合わせた、健康であるとする割合は、高齢者一般では74.0%となっている。また介護予防事業対象者では健康であるとする割合は64.3%となっている。年齢（前期高齢者：65～74歳、後期高齢者：75歳以上）別にみると、高齢者一般の前期高齢者では、健康であるとする割合は79.0%となっている。介護予防事業対象者の前期高齢者では、健康であるとする割合は66.4%となっている。

#### (高齢者一般)



#### (予防)

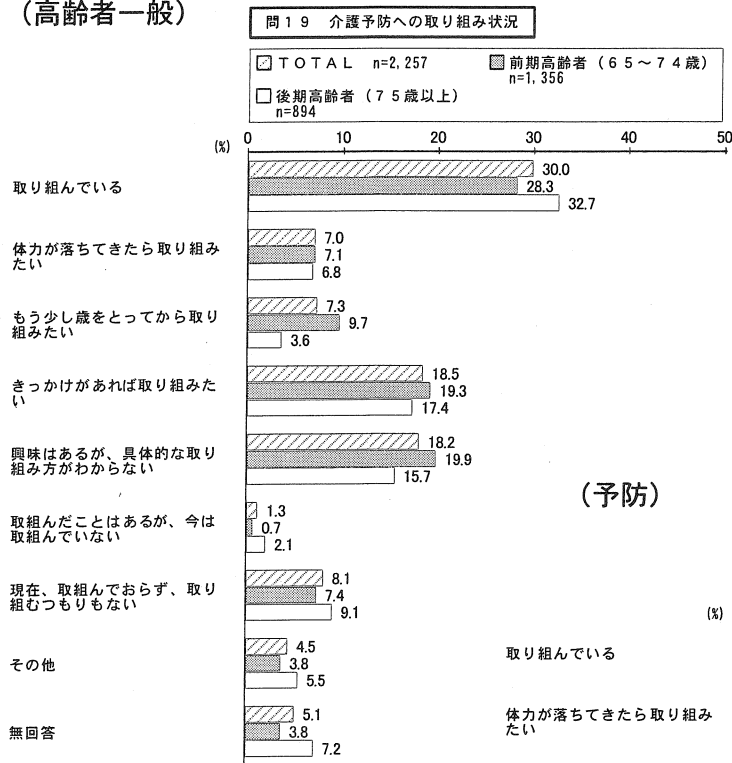


## (2) 介護予防への取り組み状況

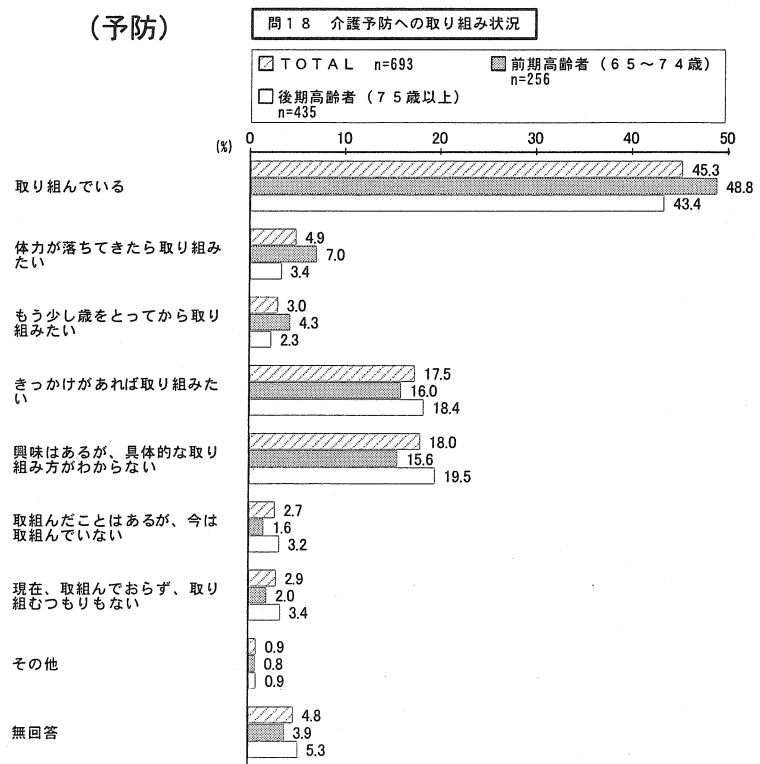
介護予防への取り組み状況をみると、高齢者一般では30.0%（前期：28.3%、後期32.7%）が「取り組んでいる」となっている。また介護予防事業対象者では45.3%（前期：48.8%、後期43.4%）となっている。

一方、「現在、取り組んでおらず、取り組むつもりもない」は高齢者一般で8.1%（前期：7.4%、後期9.1%）、介護予防事業対象者では2.9%（前期：2.0%、後期3.4%）となっている。

### (高齢者一般)



### (予防)

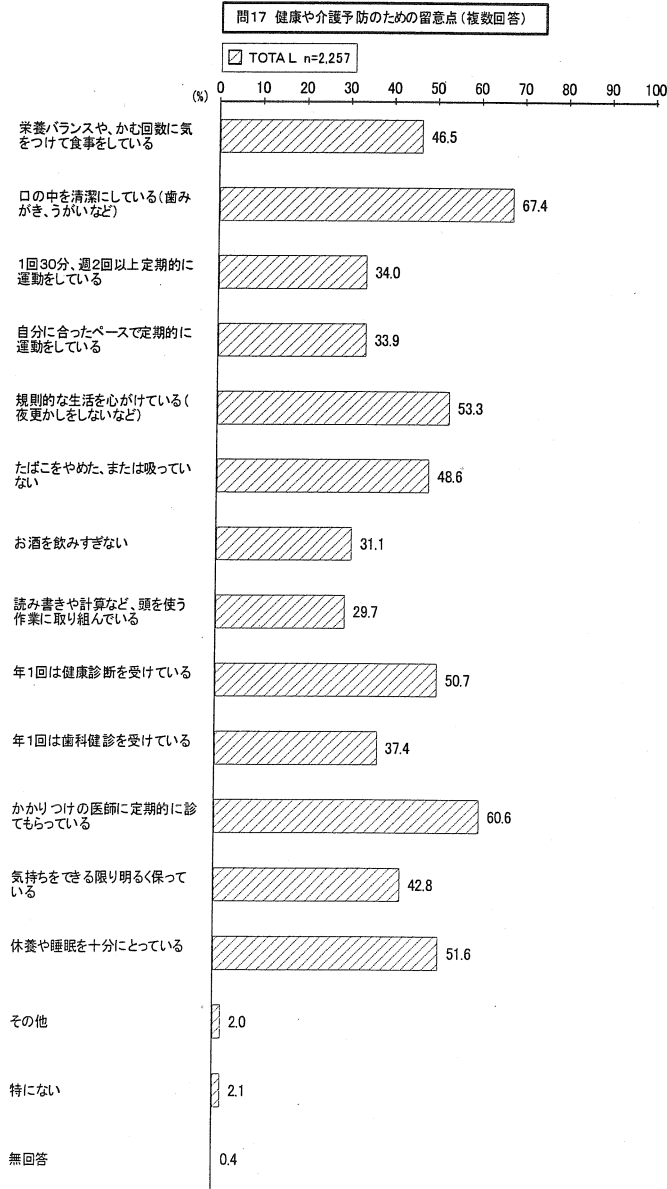


### (3) 健康や介護予防のための留意点

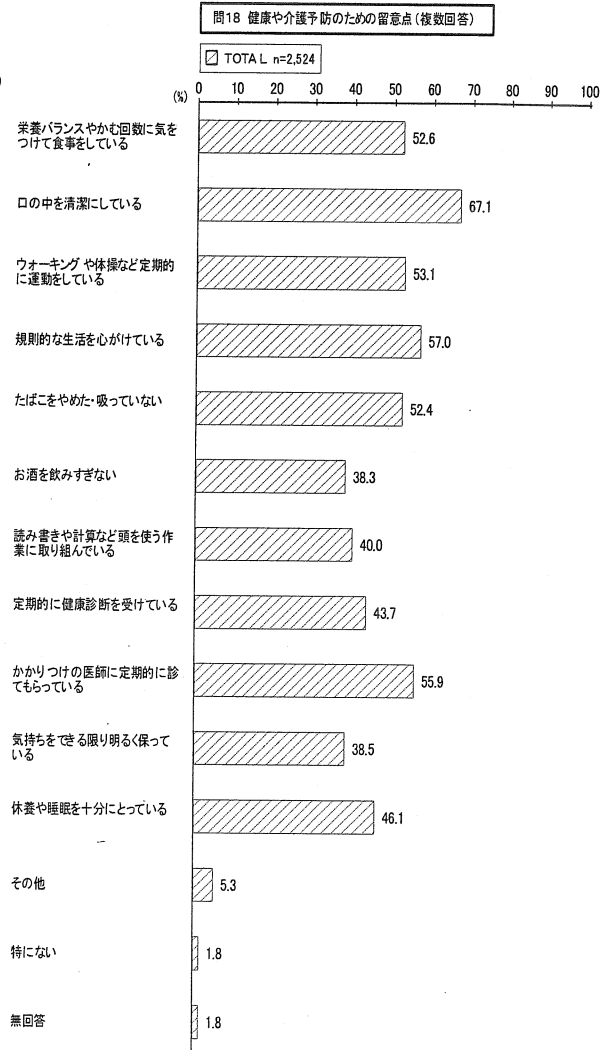
健康や介護予防のための留意点をみると、高齢者一般では回答割合の高い項目に大きな変化はみられず、「口の中を清潔にしている（歯みがき、うがいなど）」が67.4%で最も多く、次いで「かかりつけの医師（主治医）に定期的に診てもらっている」60.6%、「規則的な生活を心がけている（夜更かしをしないなど）」53.3%の順となっている。

予防では、前回に比べて「栄養バランスや、かむ回数に気をつけて食事をしている」57.6%（前回72.2%）、「口の中を清潔にしている（歯みがき、うがいなど）」80.4%（前回84.9%）など、回答割合が少なくなっている。

(高齢者一般)



(高齢者一般：前回)

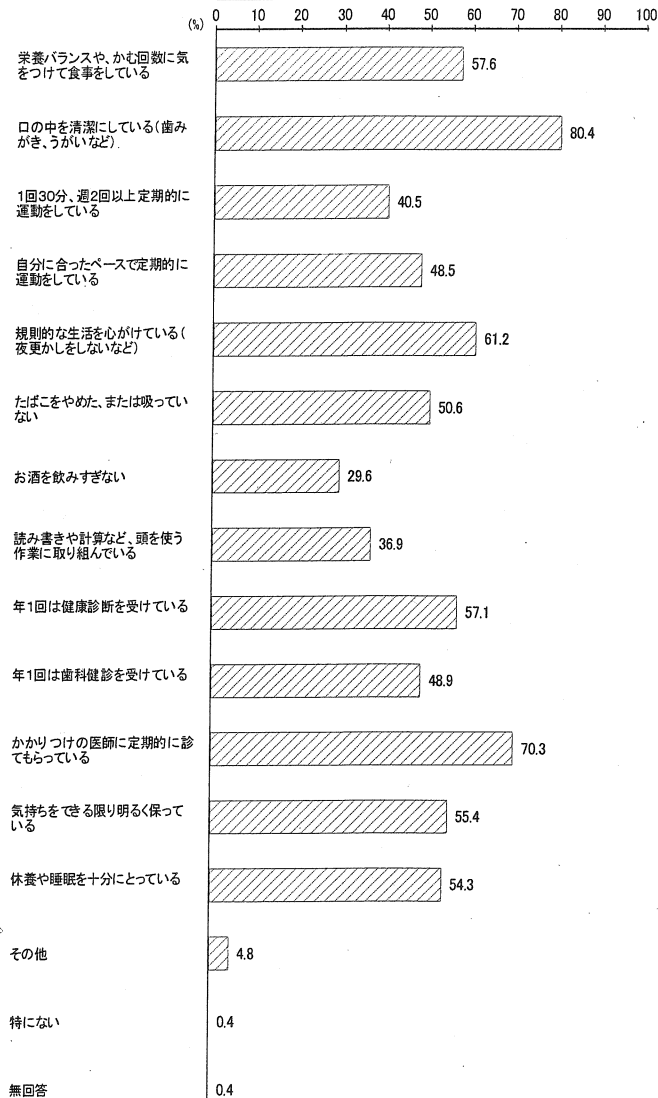


(予防)

(予防：前回)

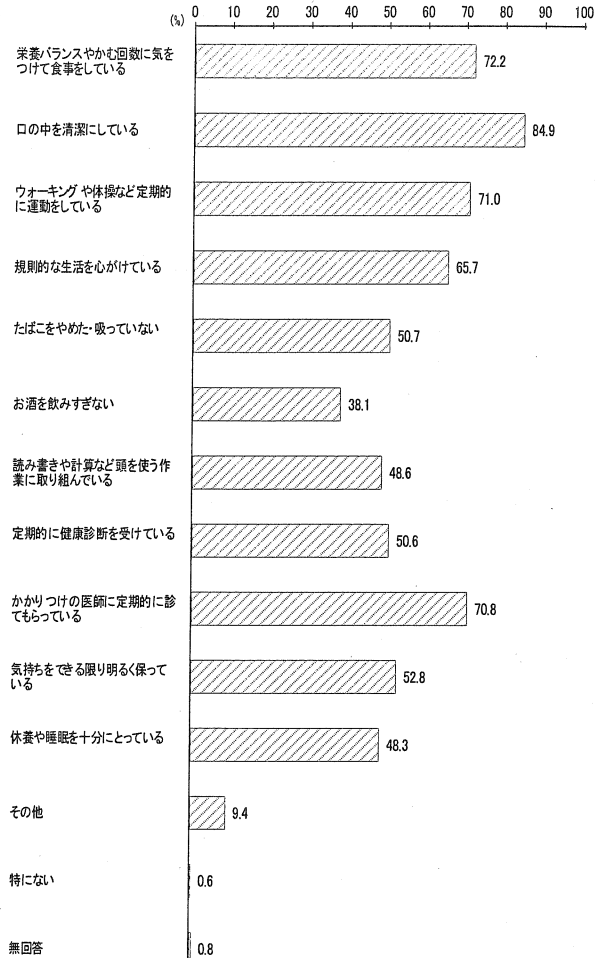
問16 健康や介護予防のための留意点 (複数回答)

TOTAL n=693



問17 健康や介護予防のための留意点 (複数回答)

TOTAL n=720

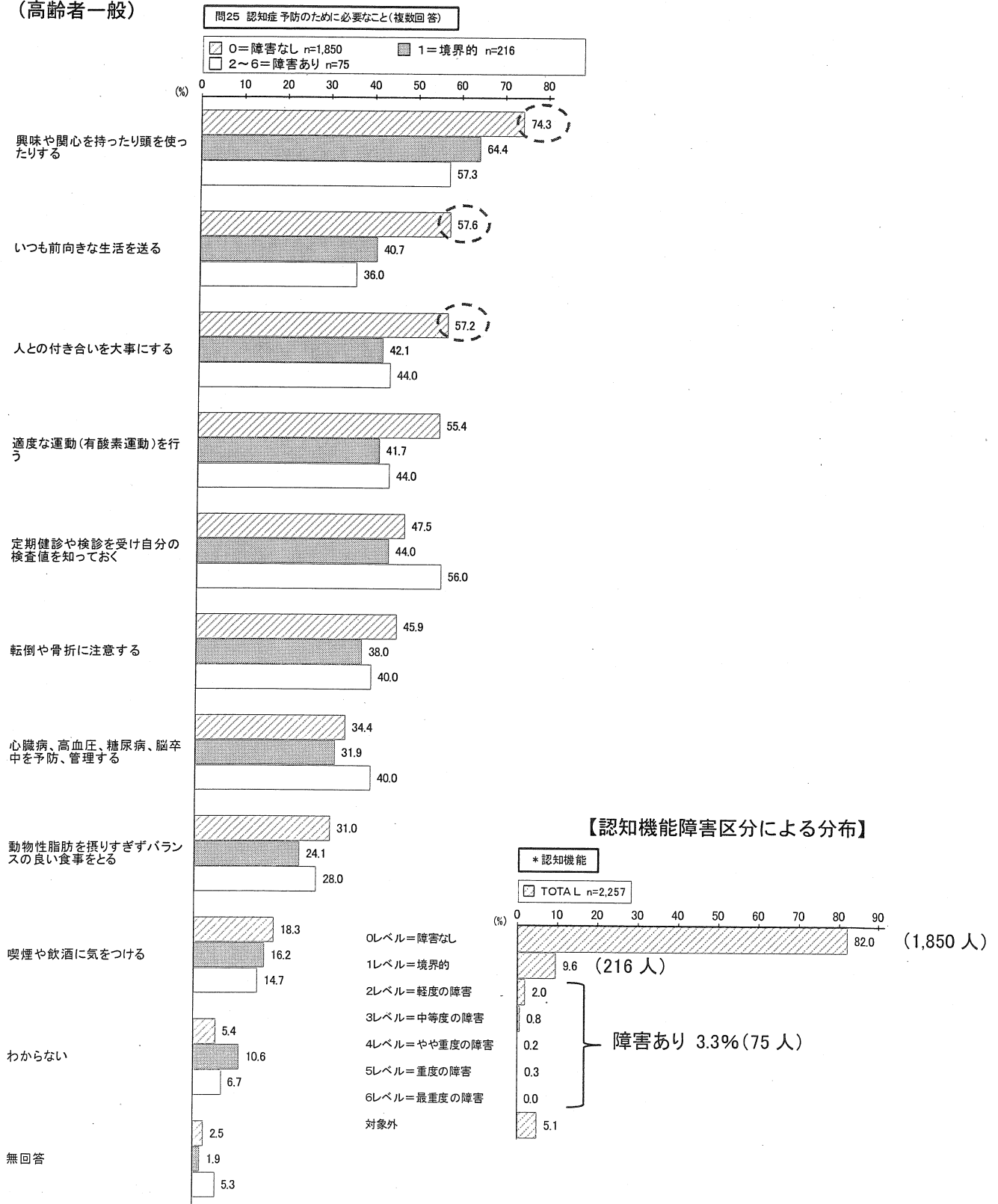


## 4 認知症

### (1) 認知症予防のために必要なこと

認知症予防のために必要なことについて、認知機能障害区分別にみると、高齢者一般では「障害なし」では「興味や関心を持ったり、頭を使ったりする」が74.3%、「いつも前向きな生活を送る」が57.6%、「人との付き合いを大事にする」が57.2%となっており、「境界的」「障害あり」の回答を上回っている。

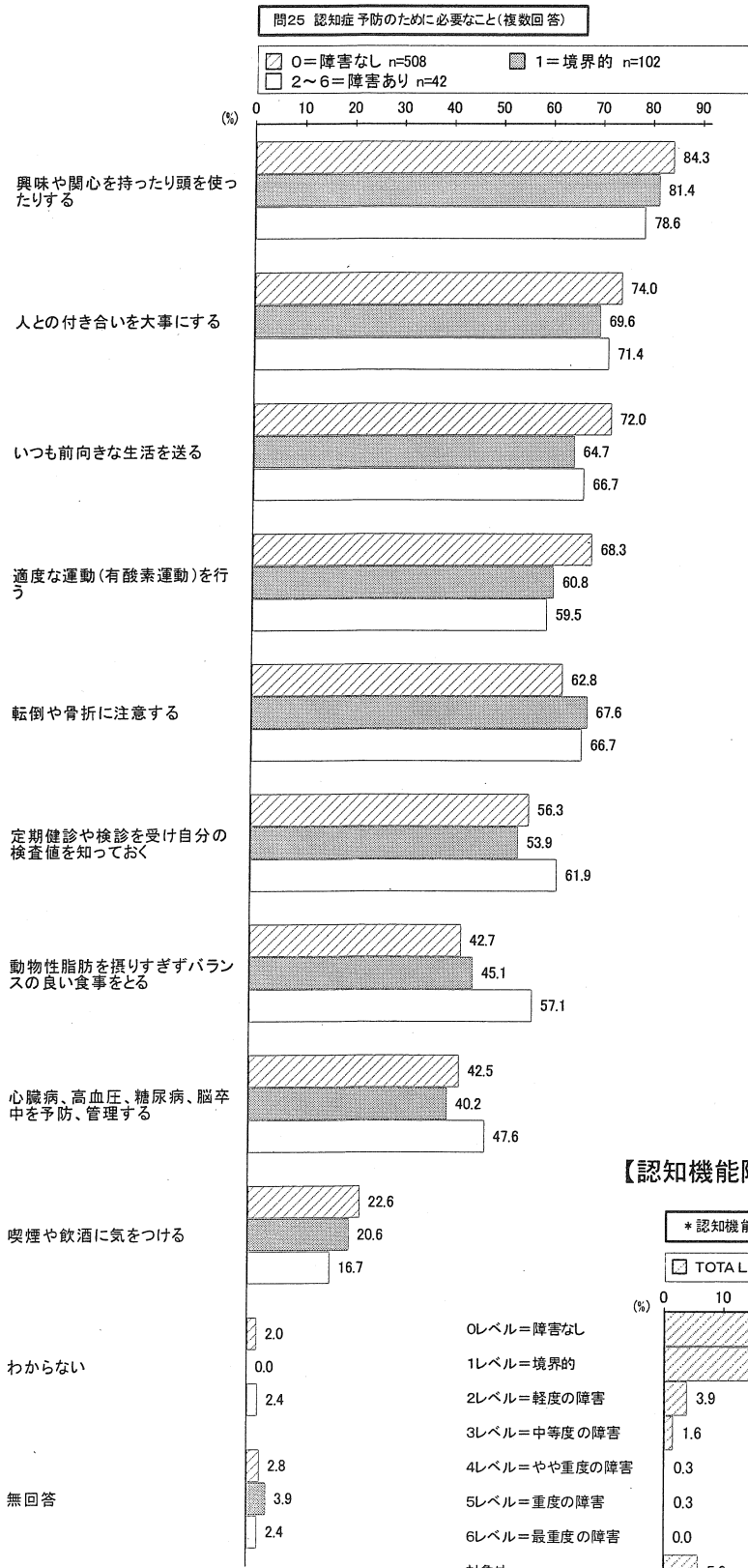
(高齢者一般)



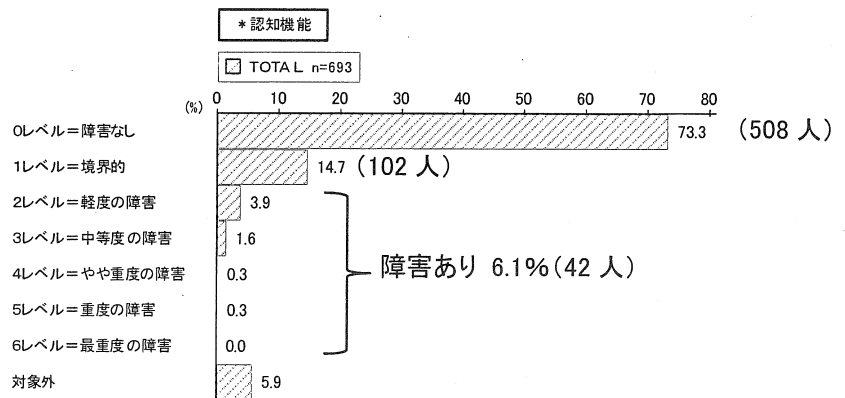
※点線○印は「障害あり」に比べて有意に差がみられる項目

認知症予防のために必要なことについて、認知機能障害区別にみると、予防対象者のうちの「障害なし」では「興味や関心を持ったり頭を使ったりする」が84.3%、「人との付き合いを大事にする」が74.0%、「いつも前向きな生活を送る」が72.0%となっている。

(予防)

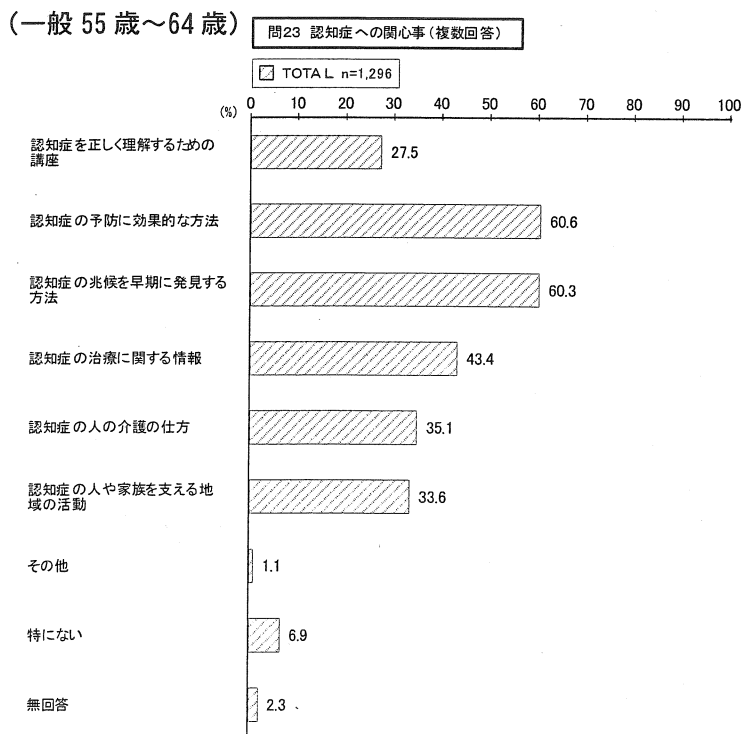
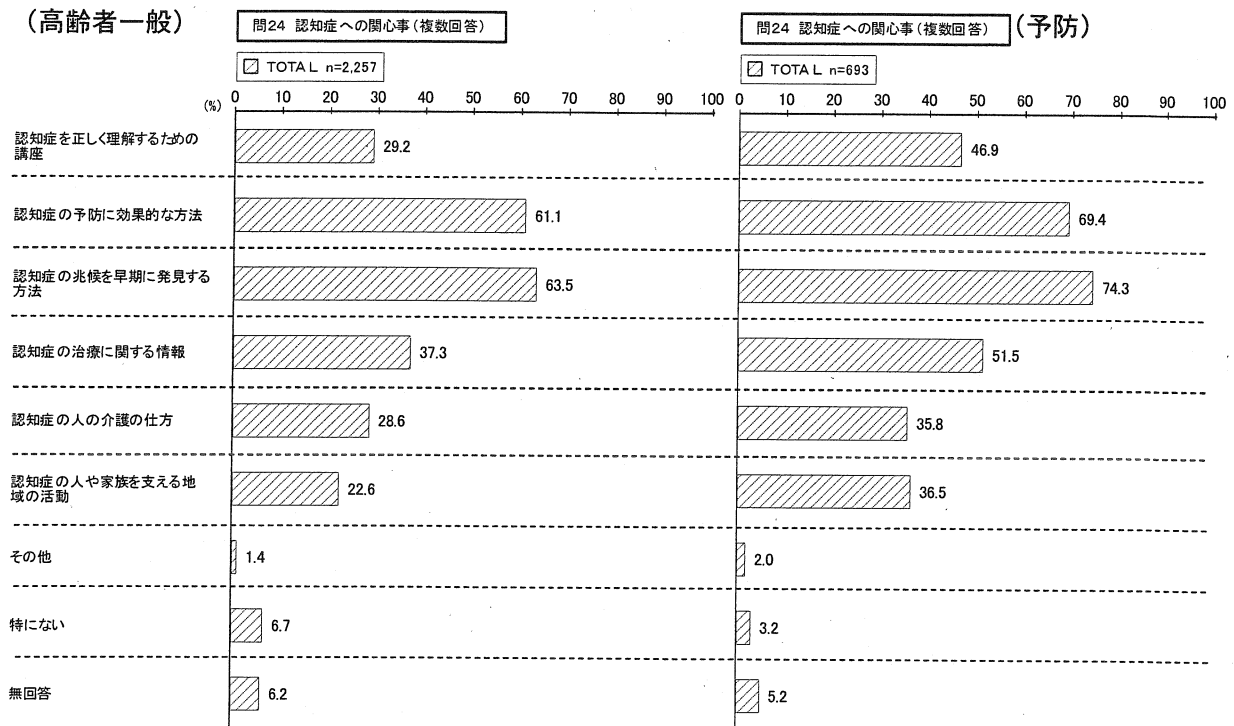


【認知機能障害区分による分布】



## (2) 認知症についての関心事

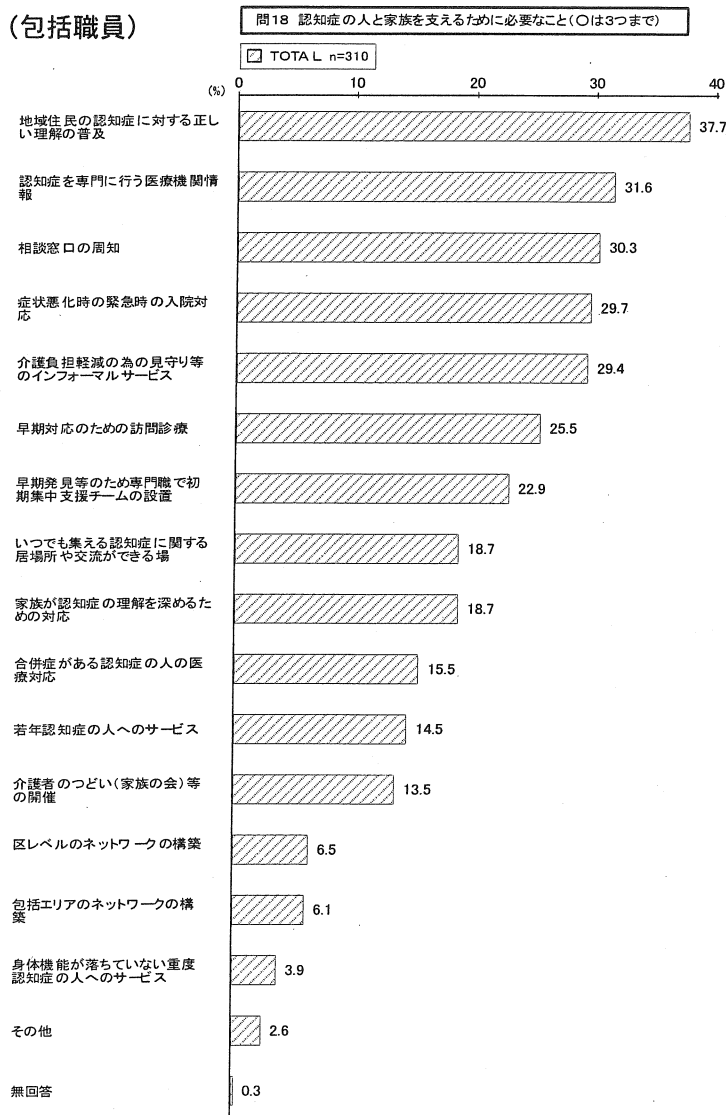
認知症についての関心のある内容をみると、高齢者一般、予防、一般（55～64歳）とも「認知症の兆候を早期に発見する方法」「認知症の予防に効果的な方法」への関心があるとする割合が多く、6～7割みられる。また、予防では「認知症の治療に関する情報」が51.5%、「認知症の人や家族を支える地域の活動」が36.5%、「認知症の人の介護の仕方」が35.8%となっている。一般（55～64歳）でも「認知症の人の介護の仕方」が35.1%、「認知症の人や家族を支える地域の活動」が33.6%となっている。





### (3) 認知症の方と家族を支えるための方策

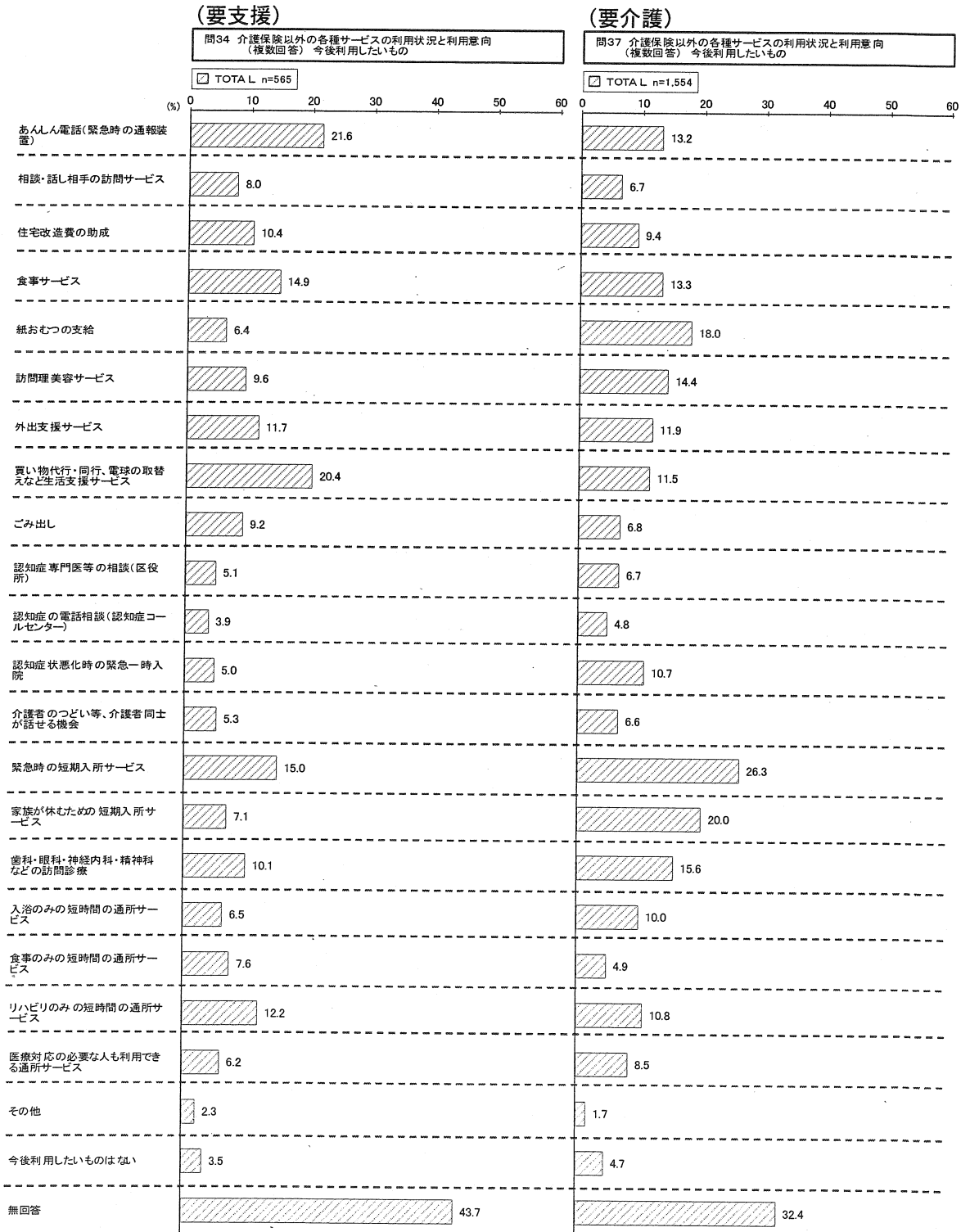
認知症の方と家族を支えるための方策について、地域包括支援センター職員による回答では、「地域住民の認知症に対する正しい理解の普及」が37.7%で最も多く、以下「認知症を専門に行う医療機関情報」31.6%、「相談窓口の周知」30.3%の順となっている。



## 5 生活支援

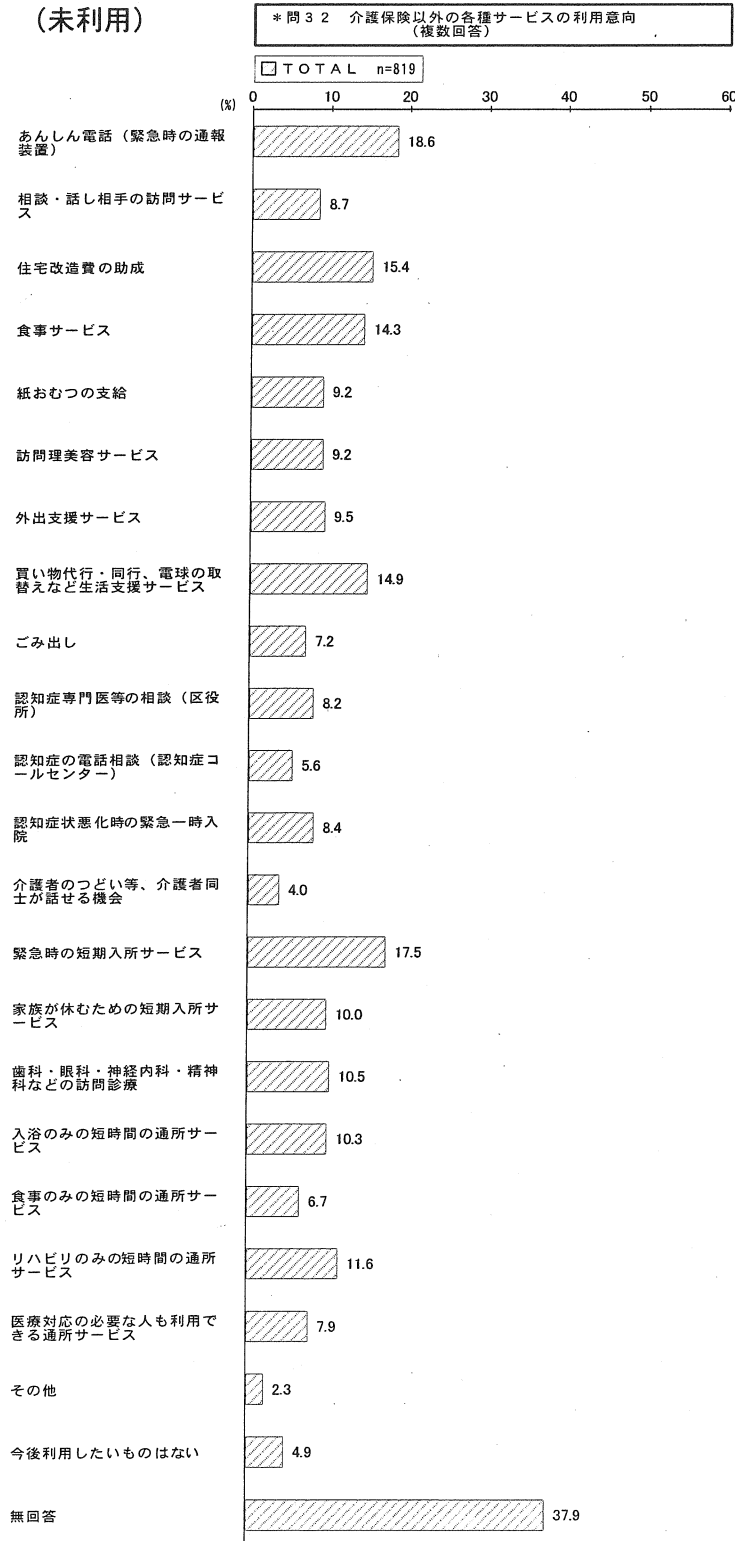
### (1) 今後利用したい介護保険以外のサービス

今後利用したい介護保険以外のサービスについては、要支援では「あんしん電話（緊急時の通報装置）」21.6%、「買い物代行・同行、部屋の電球の取替えなど、ちょっとした生活支援サービス」20.4%など、自立生活を支援するサービスへの利用意向が多くなっている。一方、要介護では「緊急時の短期入所サービス」26.3%、「家族が休むための短期入所サービス」20.0%、「紙おむつの支給」18.0%、「歯科・眼科・神経内科・精神科などの訪問診療」15.6%など、短期入所や医療対応、介護用品などの利用意向が多くなっている。



未利用者では「あんしん電話（緊急時の通報装置）」が18.6%、「緊急時の短期入所サービス」が17.5%など、緊急時対応のサービスニーズが多くなっている。

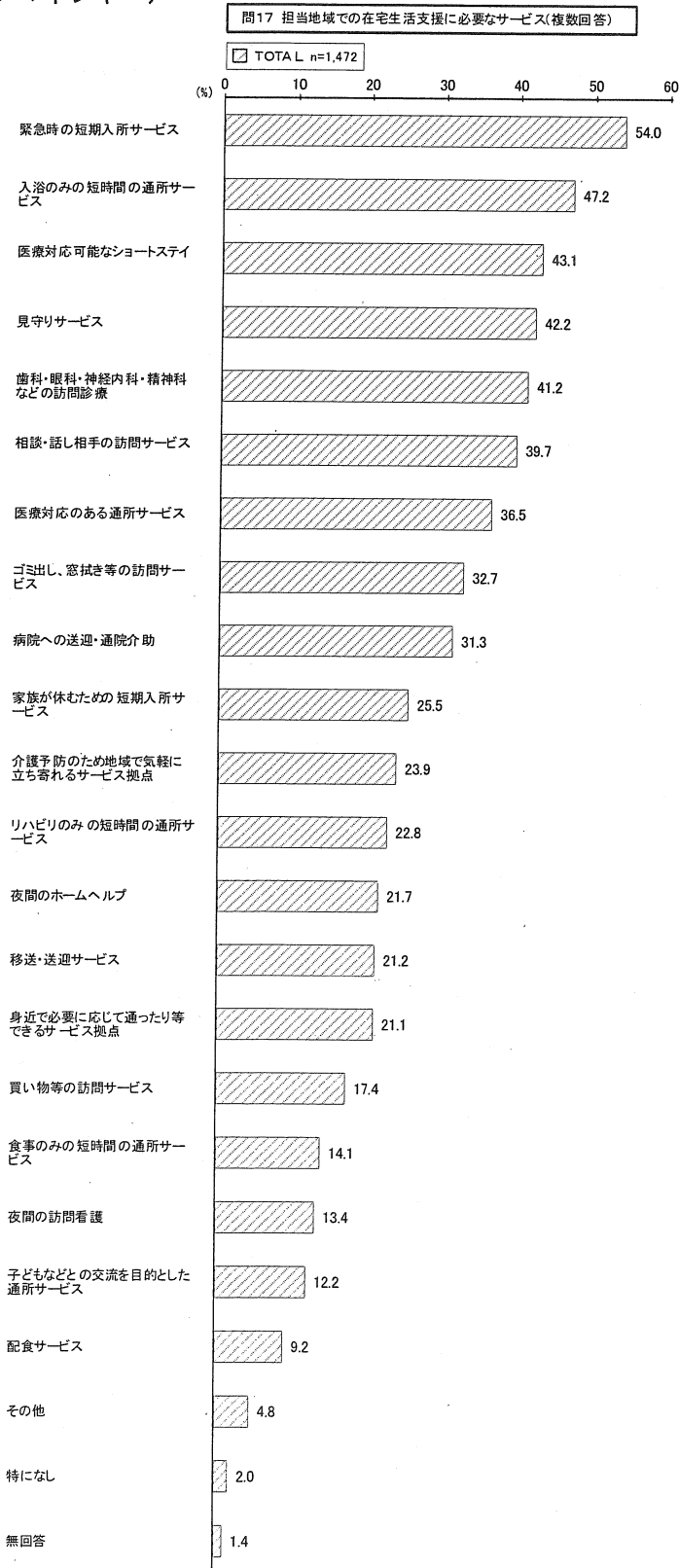
(未利用)



## (2) 必要なインフォーマルサービス

インフォーマルなサービスを含め、在宅生活を支えるために今後充実が必要だと感じるサービスについて、ケアマネジャーの回答では「緊急時の短期入所サービス」が54.0%で最も多く、「入浴のみの短時間の通所サービス」47.2%と、5割前後となっている。次いで「医療対応可能なショートステイ」43.1%、「見守りサービス」42.2%、「歯科・眼科・神経内科・精神科などの訪問診療」41.2%の順となっている。

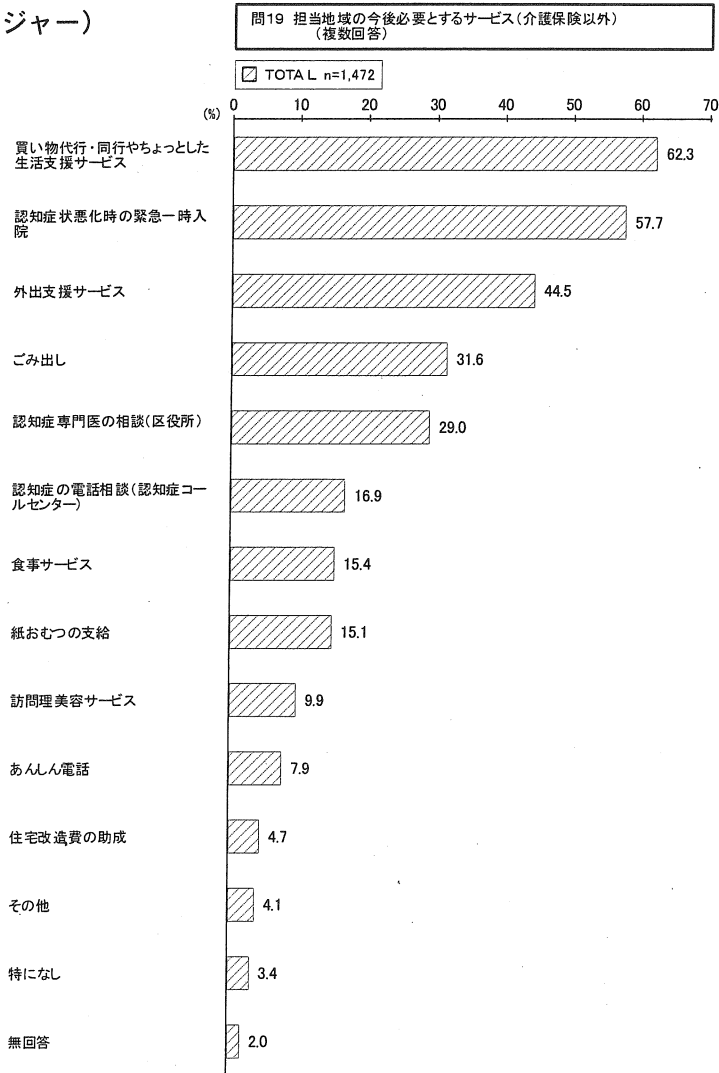
### (ケアマネジャー)



### (3) 充実が必要な介護保険以外のサービス

今後充実が必要だと思う介護保険以外のサービスについて、ケアマネジャーの回答では「買い物代行・同行やちょっとした生活支援サービス」が62.3%で最も多く、以下「認知症状悪化時の緊急一時入院」57.7%、「外出支援サービス」44.5%の順となっている。

(ケアマネジャー)

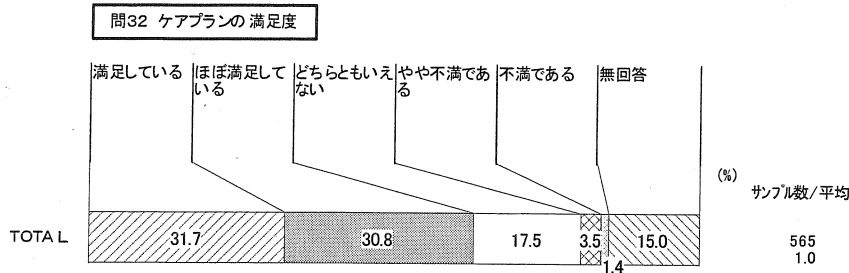


## 6 介護

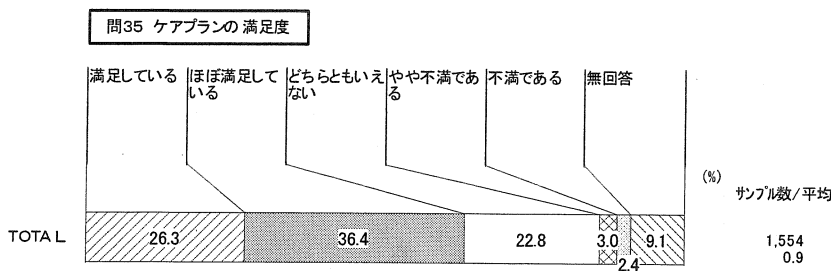
### (1) ケアプランの満足度

ケアプランの満足度をみると、「満足している」「ほぼ満足している」を合わせて、満足しているとする割合は、要支援、要介護とも6割（要支援：62.5%、要介護：62.7%）となっている。

#### (要支援)

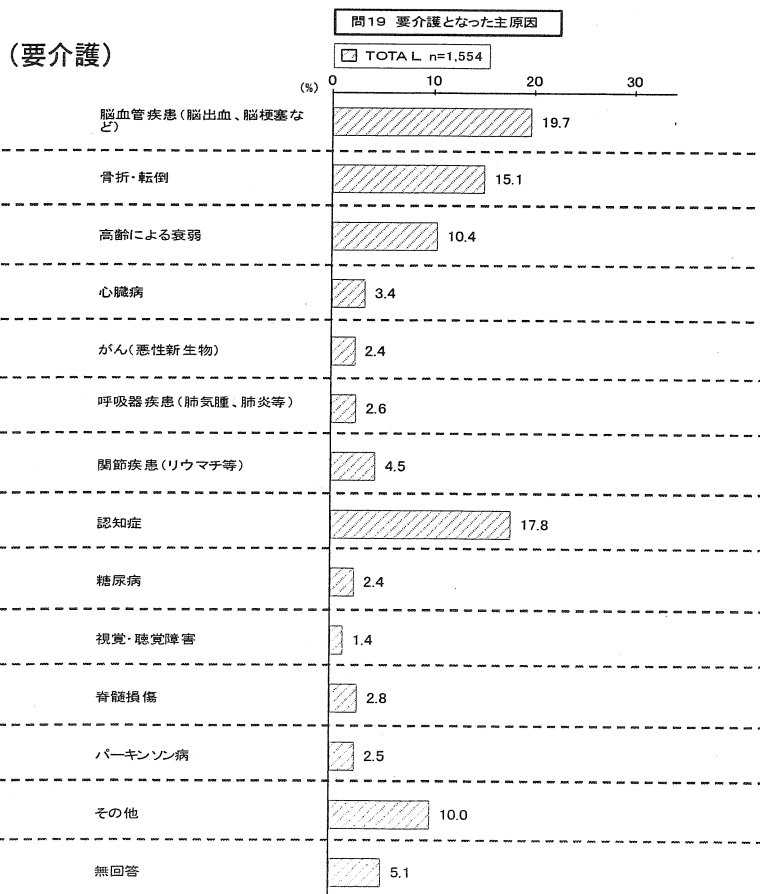


#### (要介護)



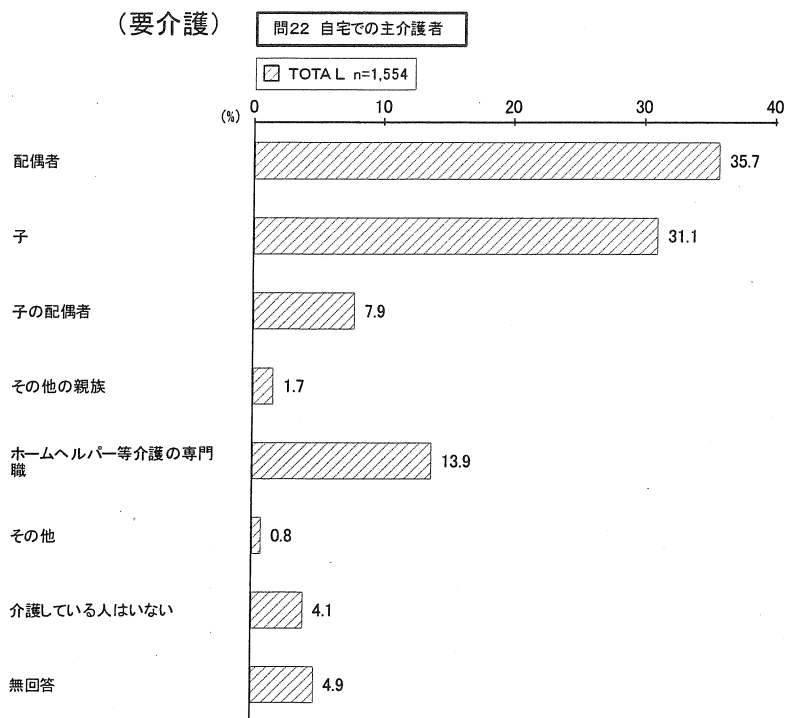
### (2) 介護が必要になった理由（主原因の傷病）

介護が必要になった主な原因（傷病）についてみると、要介護では「脳血管疾患（脳出血、脳梗塞など）」が19.7%、「認知症」17.8%、「骨折・転倒」15.1%の順となっている。



### (3) 主な介護者

自宅での主な介護者をみると、要介護では「配偶者」が35.7%となっている。次いで「子」が31.1%、「ホームヘルパー等介護の専門職」が13.9%の順となっている。



### (4) 介護負担・困りごと

要介護の介護者の介護負担・困りごとについては、以下の結果となっている。

#### 【意思疎通】

「本人に現在の状況を理解してもらるのが難しい」が33.9%（前回33.5%）、「本人の言動が理解できないことがある」30.3%（前回32.9%）が3割を超えている。

#### 【介護の仕方】

「日中、家を空けるのを不安に感じる」が43.8%（前回48.7%）となっている。また「症状への対応がわからない」13.3%（前回13.5%）、「他の家族等に介護を協力してもらえない」13.0%（前回7.8%）、「適切な介護方法がわからない」10.7%（前回10.1%）がそれぞれ1割みられる。

#### 【サービス利用】

「サービスを思うように利用できない、サービスが足りない」が10.4%（前回11.0%）となっている。

#### 【介護者自身のこと】

「精神的なストレスがたまっている」が49.6%（前回54.0%）で約5割となっているほか、「身体的につらい（腰痛や肩こりなど）」が34.2%（前回33.7%）、「自分の自由になる時間が持てない」が32.3%（前回39.1%）で3割となっている。

(要介護)

(要介護：前回)

意思疎通

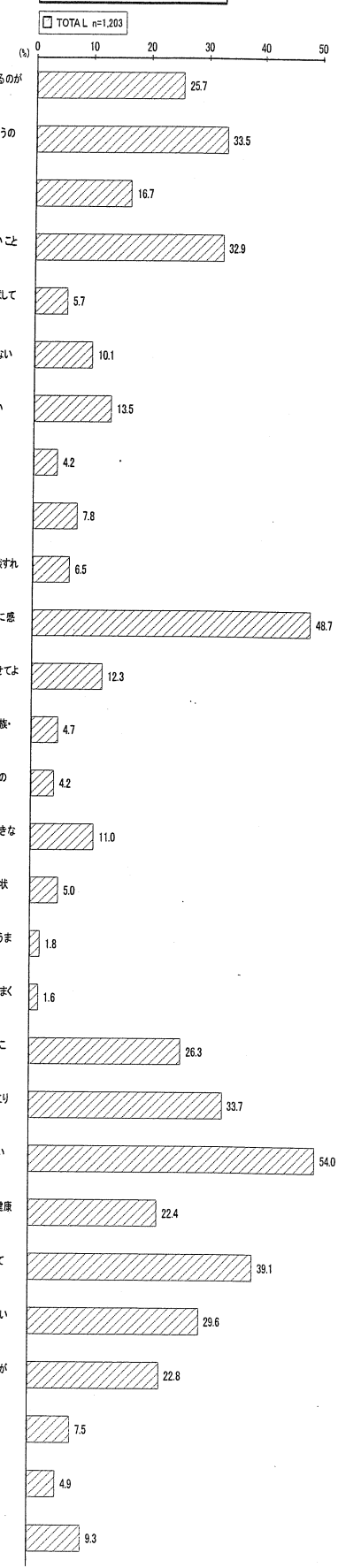
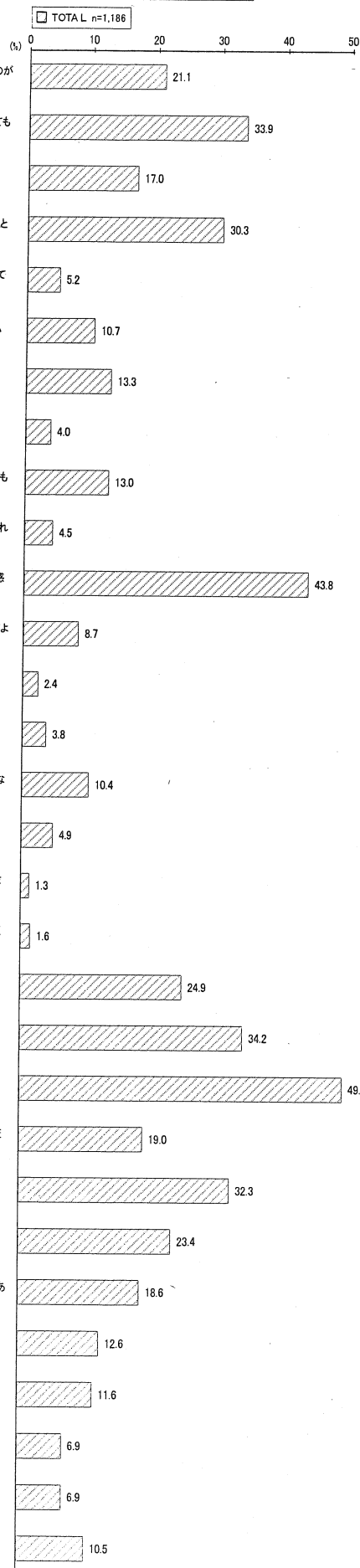
介護の仕方

サービス利用

介護者自身のこと

問29 在宅介護の困難や負担な点 (複数回答)

問24 在宅介護の困難や負担な点 (複数回答)



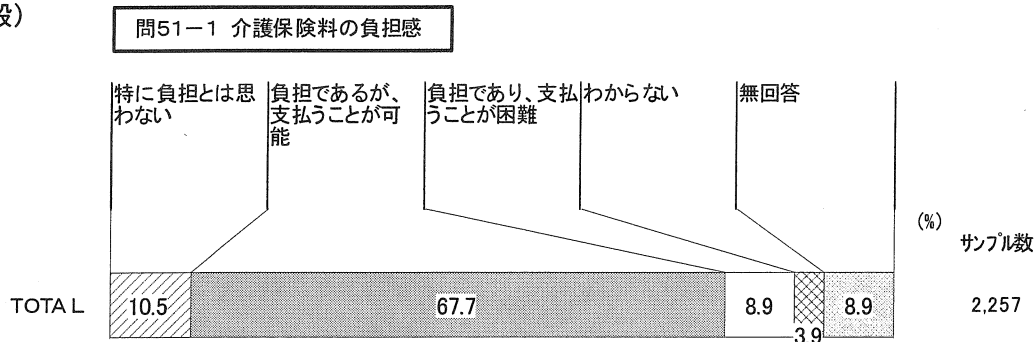


## 7 介護保険料

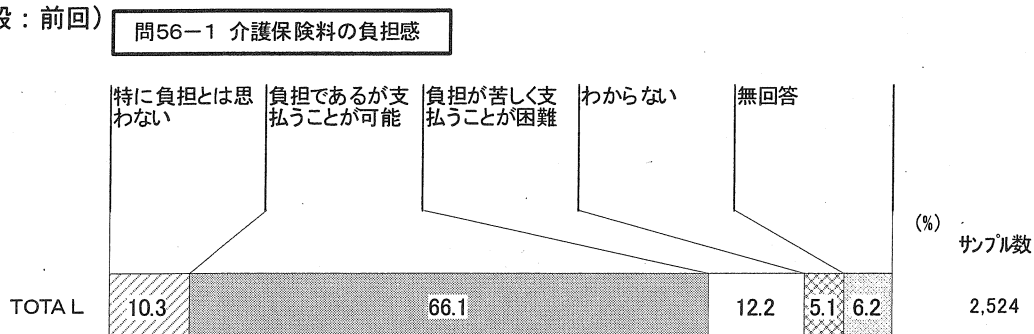
### (1) 介護保険料の負担感

介護保険料の負担感については、前回と比較して回答割合に大きな変化はみられず、「特に負担とは思わない」「負担であるが、支払うことが可能」を合わせた割合は高齢者一般で78.2%（前回76.4%）、要支援73.8%（前回75.7%）、要介護72.2%（前回75.5%）となっている。

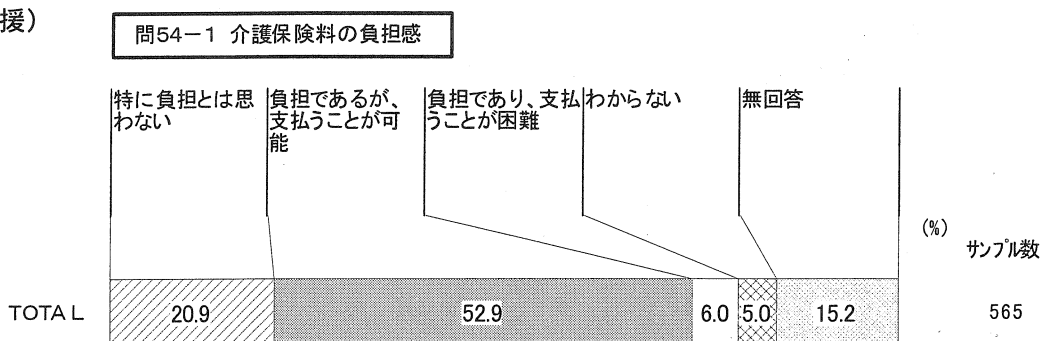
(高齢者一般)



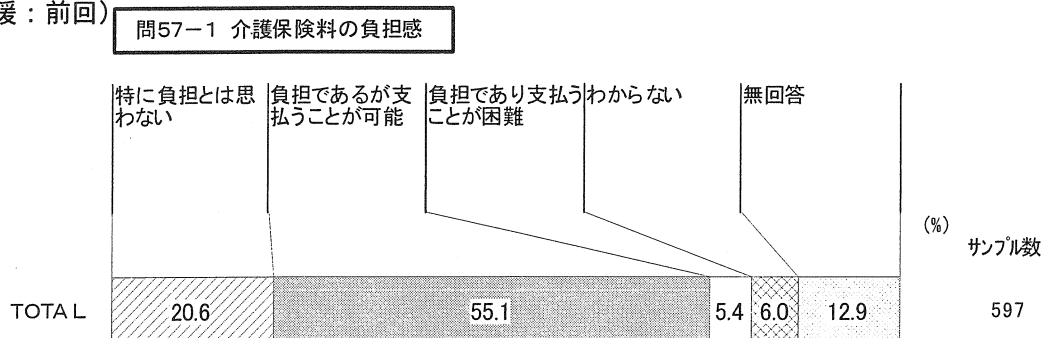
(高齢者一般：前回)



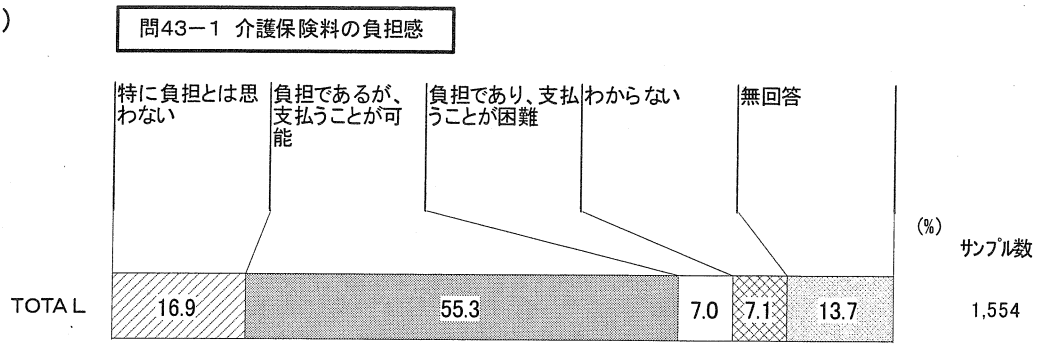
(要支援)



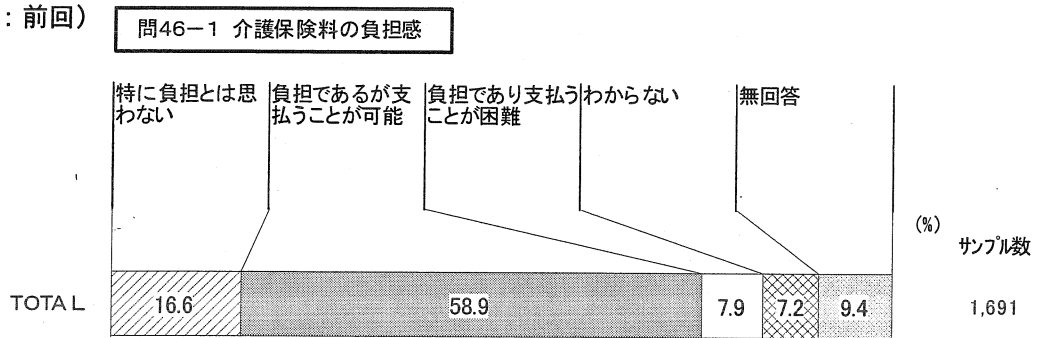
(要支援：前回)



(要介護)



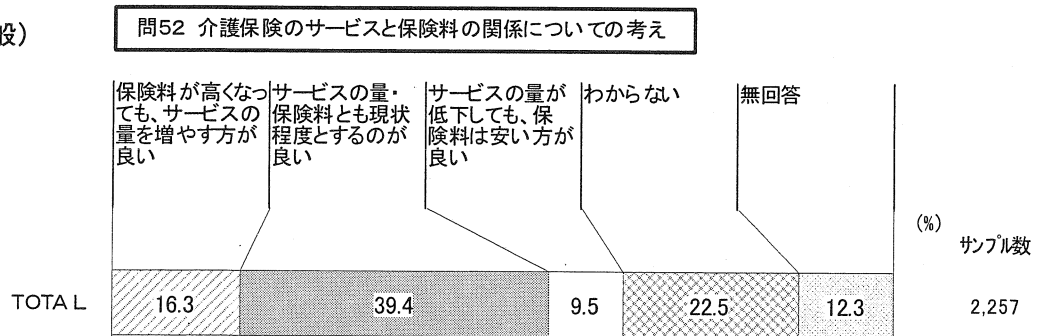
(要介護：前回)



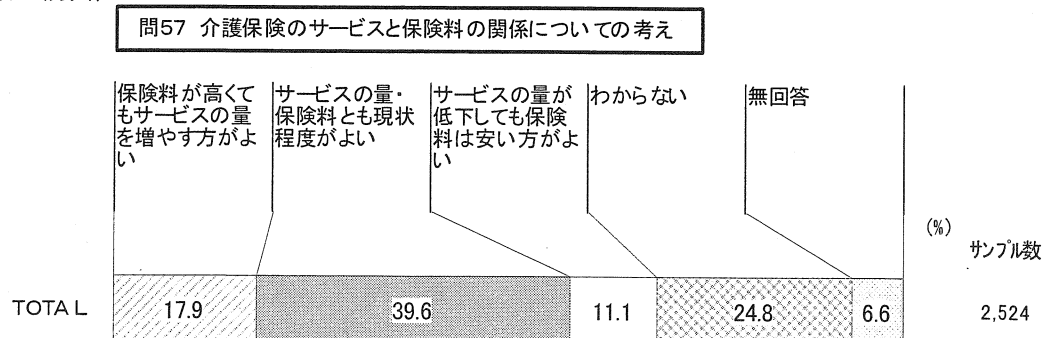
(2) 介護サービスと保険料の関係について

介護サービスと保険料の関係については、前回と比較して回答割合に大きな変化はみられず、「保険料が今より高くなっても、施設や在宅サービスの量を増やす方が良い」「施設や在宅サービスの量は現状程度とし、保険料も現状程度とするのが良い」を合わせた割合は高齢者一般で 55.7% (前回 57.5%)、要支援 63.4% (前回 62.2%)、要介護 67.7% (前回 59.9%) となっている。

(高齢者一般)

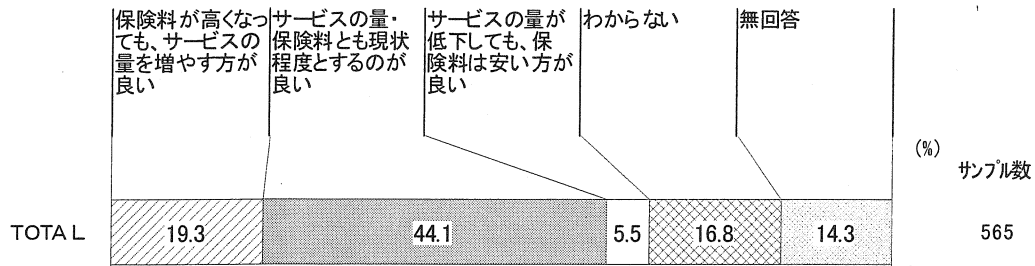


(高齢者一般：前回)



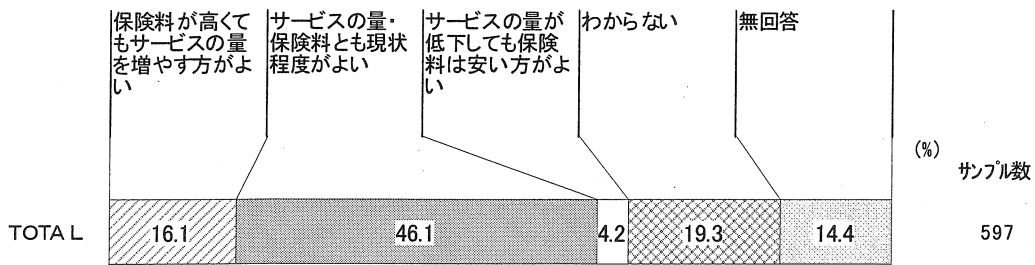
(要支援)

問55 介護保険のサービスと保険料の関係についての考え



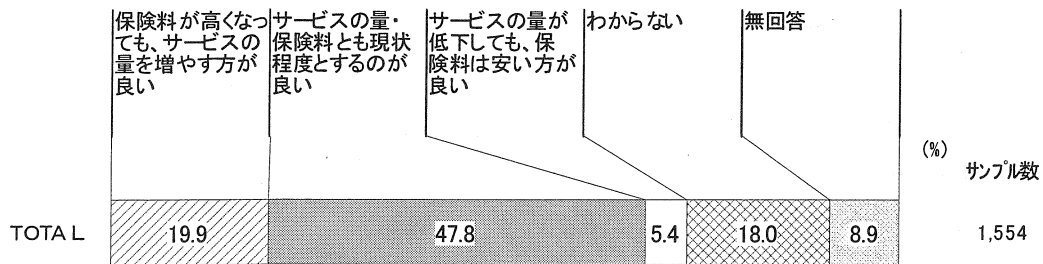
(要支援：前回)

問58 介護保険のサービスと保険料の関係についての考え



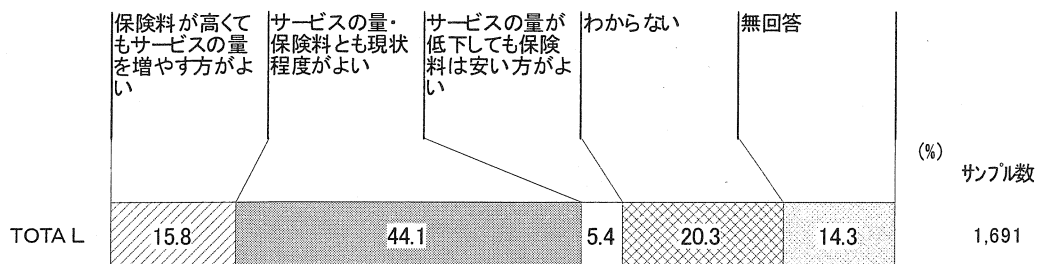
(要介護)

問44 介護保険のサービスと保険料の関係についての考え



(要介護：前回)

問47 介護保険のサービスと保険料の関係についての考え



## 8 特別養護老人ホーム

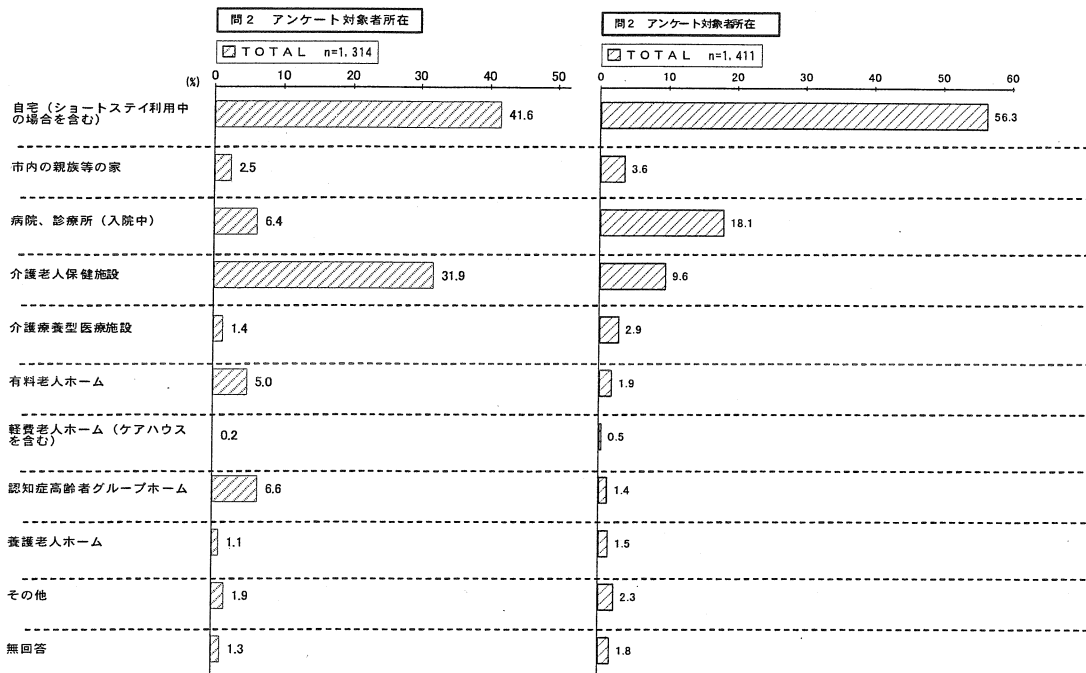
### (1) 特養入所申込者本人の現在の所在

特養入所申込者本人の現在の所在については、「自宅(ショートステイ利用中の場合を含む)」が41.6%で最も多いが、前回(56.3%)より低くなっている。また「病院、診療所(入院中)」は6.4%と前回(18.1%)より低くなっている。

一方、「介護老人保健施設」が31.9%と前回(9.6%)を大きく上回っているほか、「認知症高齢者グループホーム」が6.6%(前回1.4%)、「有料老人ホーム」が5.0%(前回1.9%)となっている。

(特養申込者)

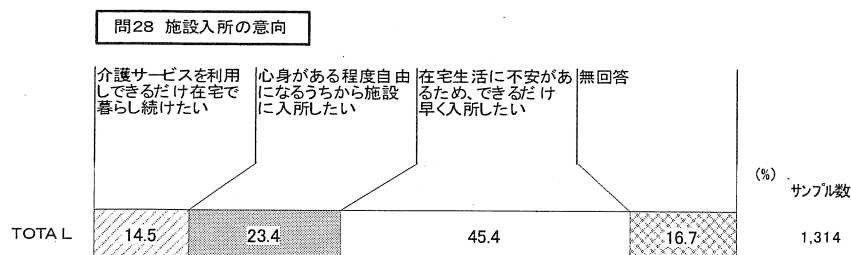
(特養申込者：前回)



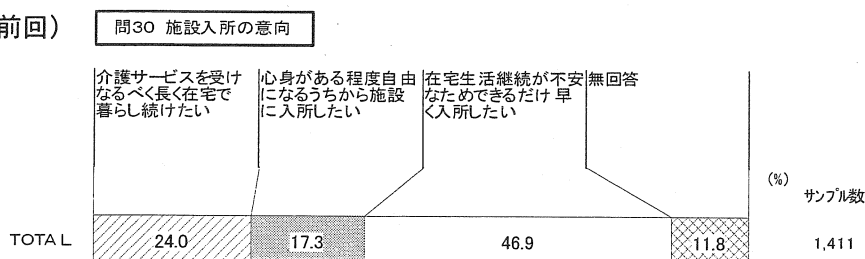
### (2) 特養入所の意向

特養入所の意向をみると、特養申込者の14.5%は「在宅介護サービスを利用しながら、できるだけ長く在宅で暮らし続けたい」としており、前回結果(24.0%)を下回っている。一方、23.4%は「先々が心配なので、心身がある程度自由になるうちから施設に入所したい」となっており、前回結果(17.3%)を上回っている。

(特養申込者)



(特養申込者：前回)



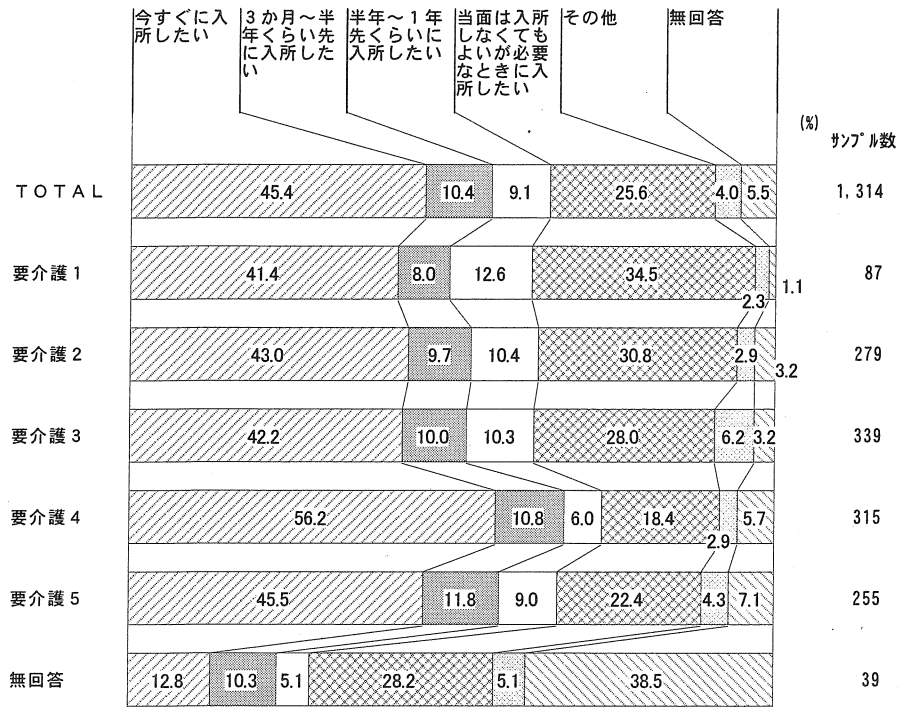
### (3) 特養入所時期の意向

特養入所時期の意向については、前回回答割合との大きな差はみられず、45.4%（前回46.4%）が「今すぐに入所したい」となっている。また、25.6%（前回28.5%）は「当面は入所しなくてもよいが必要なときに入所したい」となっている。

要介護度別にみると、要介護4、5では「今すぐに入所したい」とする割合がそれぞれ56.2%（前回52.9%）、45.5%（前回49.8%）となっている。

(特養申込者)

問 2 9 特別養護老人ホーム入所希望の時期



(特養申込者：前回)

問 3 1 特養入所時期の意向

